

あまっ子の育ちと学びをつなぐ

# 幼保小接続カリキュラム

尼 崎 市

## 目 次

第1章 幼保小接続カリキュラム作成にあたって	1
第2章 就学前教育の理念	
1 尼崎市子どもの育ち支援条例	2
2 就学前の子どもの教育・保育の基本的な考え方	3
第3章 幼児期と児童期の接続の推進にあたって	
1 幼児期の教育と児童期の教育	5
(1) 幼児期の教育（幼稚園、保育所、認定こども園における教育）	
(2) 児童期の教育（小学校における教育）	
(3) 幼児期の教育と児童期の教育の比較	
2 幼児教育における「見方・考え方」	7
3 幼児教育において育みたい資質・能力の整理と、 小学校教育の各教科等とのあり方	8
4 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	8
5 接続期に育てたい3つの力	11
第4章 幼保小接続（アプローチ・スタート）カリキュラム	
1 乳・幼児期から児童期の発達段階	15
2 児童期につながる幼児期につけたい力	18
3 幼保小接続（アプローチ・スタート）カリキュラム （生活する力・人とかかわる力・学ぶ力）	19
4 幼保小接続（アプローチ・スタート）カリキュラム 記入枠	22
5 アプローチカリキュラムから小学校へのつながり【指導編】	
(1) 環境	24
(2) 生活する力（食事、排泄、整理整頓、見通し）	26
(3) 人とかかわる力（協同、生活のルール）	34
(4) 学ぶ力（心情・意欲・態度、言葉、自然）	38
6 幼児期の保育と児童期の授業の接続の視点	
(1) お店ごっこ（5歳児）	44
(2) 泥んこ遊び（5歳児）	46
第5章 スタートカリキュラム	
1 スタートカリキュラム作成のねらい	48
2 スタートカリキュラム	50
3 単元案（生活科を中心としたカリキュラム：第1学年 学校たんけん）	57
4 スタートカリキュラム（モデル校実践案）	60
参考引用文献等	63

## 第1章 幼保小接続カリキュラム作成にあたって

少子化、核家族化、地域社会の変容、都市化、グローバル化など、子ども達を取り巻く環境が大きく変わる現代において、子ども達の育ちをめぐる様々な課題が生じています。

教育現場では、いわゆる「小1プロブレム」が生じており、課題の一つとなっています。また、小学校への進学にあたり、特別な支援を必要とする子どもの情報の共有や、適切な引き継ぎの重要性も叫ばれています。

こうした課題を踏まえ、幼稚園、保育所、認定こども園、小学校には、子どもの発達に合わせ、学びの連続性を確保できるよう、幼児期と児童期の滑らかな接続を図り、子どもの健やかな育ちを支えていくことが今求められています。

国においても、保育所、幼稚園、認定こども園、小学校の連携を図ることが重要であるとされ、学習指導要領等でもそのことが定められています。

また、兵庫県においても、『幼児期と児童期の「学び」の接続の推進に向けて』指導の手引きを作成し、連携の重要性と充実を求めています。

しかしながら、尼崎市では、幼稚園、保育所、小学校において、交流活動は一定進められてきたものの、個別または一部の実施にとどまっていました。そこで本市では、幼児期と児童期の学びの滑らかな接続を目指し、平成27年度に幼保小連携推進委員会を立ち上げました。推進委員会では、お互いの教育内容を知るとともに、幼保小の円滑な接続に向け「幼保小接続（アプローチ・スタート）カリキュラム」を作成しました。そして、令和3年度より「幼保小接続（アプローチ・スタート）カリキュラム」実践校園所を2か所設置し、今後実施校園所を広めていく予定です。

本カリキュラムを活用し、幼児期から児童期の子ども達の健やかな育ちを育み、幼稚園、保育所、認定こども園、小学校のさらなる交流・連携が充実することを目指します。

## 第2章 就学前教育の理念

### 1 尼崎市子どもの育ち支援条例

本市は、平成21年12月に「尼崎市子どもの育ち支援条例」を制定し、0歳から18歳までの子どもの育ちの基本理念等を示しました。条例では、子どもは生まれたときから学びながら育つ力を持ち、将来への可能性が開かれ、その成長の過程において、生きる、育つ、守られる、参加するといった子どもの人権が尊重されるとともに、多様な人々と関わりを持ち、また、多様な経験を重ねることにより、自分を大切にできる心、他者を尊敬する心、規範意識等が生まれ、社会の一員として様々な責任を果たすことができる大人へ成長していくとしています。

その中で、子ども施設の役割を以下のように述べています。

(子ども施設の役割)

第6条 子ども施設は、基本理念にのっとり、次の各号に掲げる役割を果たすよう努めなければならない。

- (1) 子どもが考える力、創造力等を身に付けることができるように、年齢及び成長に応じ、その育ちを支えること。
- (2) 子どもが、集団生活における他者とのかかわりを通じて他者を尊敬する心、規範意識、豊かな人間性、社会性等を身に付けることができるように、年齢及び成長に応じ、その育ちを支えること。
- (3) 要支援の状態にある子ども（以下「要支援の子ども」という。）の早期発見及びその支援を行うこと。

また、市の責務について、以下のように述べています。

(子どもの主体性の育み)

第9条 子どもは、様々な責任を果たすことができる大人へと成長するように、次の各号に掲げる事項について、その年齢及び成長に応じ、学ぶこと及び主体的に考え、行動することに努めなければならない。

- (1) 他者を大切にし、他者への思いやりの心を持つこと。
- (2) 社会生活上の決まりを守ること。
- (3) 他者とのかかわりを大切にする中で、主体的に生きていく力を高めること。

これらを踏まえ、市及びその子ども施設は、子どもの育ちを発達段階に応じて支援していくことが求められています。

## 2 就学前の子どもの教育・保育の基本的な考え方

平成27年4月から本格施行した子ども・子育て支援新制度では、保護者が子育ての第一義的責任を有するという基本的認識の下に、幼児期の教育・保育、地域の子ども・子育て支援を総合的に推進することが趣旨とされ、市町村は新制度の実施主体の役割を担うこととなっています。

また、尼崎市教育委員会では、教育の基本方針を「人間尊重の精神に徹し、明るい社会をつくり出す心豊かなたくましい人間の育成をめざす」とし、5つの努力目標を設定して、学校教育、社会教育を推進しています。

尼崎市と尼崎市教育委員会では、子ども・子育て支援新制度の本格施行を一つの契機と捉え、子どもの生きる力や生涯にわたる人間形成の基礎を培う上で重要な役割を担っている就学前の子どもの教育・保育の基本的な考え方についてまとめ、市民が共有することが必要であるとの認識に立ち、尼崎市長と尼崎市教育委員会委員長（当時）は、「尼崎市子ども・子育て審議会（以下、「審議会」という。）」に対し、尼崎市の就学前の子どもの教育・保育のあり方について諮問を行いました。

こうした状況を踏まえ、審議会では、「就学前の教育・保育の在り方検討部会」を設置し、子どもの最善の利益に配慮しつつ、「子どもの発達や学びの連続性を意識しつつ、就学前においては、何を重視するのがよいか。」「子どもにかかわる保護者をはじめとする大人、幼稚園や保育所などの施設、更には、地域の役割」などについて、尼崎市のすべての子どもの健やかな育ちを大切にしたい視点で多角的に考察していただき、平成26年10月に、審議会会長から尼崎市長と尼崎市教育委員会委員長に対し、答申が提出されました。

尼崎市と尼崎市教育委員会では、審議会からの答申に基づき、『就学前の子どもの教育・保育の基本的な考え方』（図1）をまとめました。この基本的な考え方に基づき、すべての就学前の子どもへの教育・保育、地域の子育て支援のより一層の充実を図るため、小学校との連携を図りながら様々な取組を進めていきたいと考えています。

この基本的な考え方では、子どもの発達過程（特性）と、就学前の時期にかかわる様々な人との関係において子どもが身に付けておくとよいと考えられることを「重視する5項目」として挙げるとともに、家庭・子ども施設・地域や行政が共通した認識のもと、それぞれの果たすべき役割を盛り込んでいます。

なお、この5項目はそれぞれが相互に関連しており、それぞれ切り離すことは難しいものです。また、人によっては、それぞれの時期が前後することや、この通りに進まないこともあると考えられます。そうしたことから、年齢だけでなく、それぞれの発達の状況に応じて、対応していくことが必要です。



図1 就学前の子どもの教育・保育についての基本的な考え方（周知用リーフレットより）

## 第3章 幼児期と児童期の接続の推進にあたって

小学校入学期は、子どもと保護者にとって、期待と不安の入り混じった時期でもあります。就学前は、送迎などを通じて、幼稚園や保育所等での子どもの様子を知ることができましたが、小学校入学後は、子どもが学校にいる時間が長くなり、どのように学校で過ごしているのかわからないと不安を抱く保護者もいます。保育士、幼稚園教諭、小学校教諭は、そのことをしっかりと認識し、子どもの成長と学びを支援していく必要があります。

幼児教育においては、遊びを通して様々な経験をし、学ぶ意欲や学習態度の基礎となる好奇心や探究心を培っていくなど、小学校以降の生活や教科を中心とした学習を見通した指導が必要になります。

一方、小学校教育においては、保育所・幼稚園等との環境や設備の変化、時間割に基づいた生活の変化などに対応した指導や配慮が求められます。そして何よりも、保育所・幼稚園等で遊びや生活を通じて学んだことを先行経験として子ども達が持っているということ、小学校は理解・把握し、先行経験を踏まえた授業展開や生活指導を行うことで、子どもの連続した「育ち」と「学び」を保障しなければなりません。

これらのことから、接続期の幼児教育で取り組む「アプローチカリキュラム」と、小学校入学期に取り組む「スタートカリキュラム」を作成し、幼保小接続（アプローチ・スタート）カリキュラムを基に、幼児期の体験を通じた「育ち」と「学び」を、児童期の教科を中心とした「学び」へと確かにつないでいくことが必要になります。

### 1 幼児期の教育と児童期の教育

#### (1) 幼児期の教育（幼稚園、保育所、認定こども園における教育）

幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要な役割を担っており、幼児期の発達の特徴に照らして幼児の自発的な活動を重視し、教育課程・保育課程を編成し、教師が意図的・計画的な指導を「環境を通して」行っています。

また、遊びを通して身体感覚を伴う多様な活動を経験することによって、豊かな感性を養うとともに、生涯にわたる学習意欲や学習態度の基礎となる好奇心や探究心を培い、また、小学校以降における教科の内容等について、実感を伴って深く理解できることにつながる「学びの芽生え」を育てています。

#### (2) 児童期の教育（小学校における教育）

児童期の教育は、義務教育のうちの基礎的なものを施すものであり、「人間としての調和のとれた育成を目指し、地域や学校の実態及び児童の心身の発達段階や特性を十分考慮して」編成された教育課程のもと、計画的な指導を「教科書」を通して行い、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図っています。

また、教科学習や道徳教育、特別活動などを通して、知・徳・体のバランスのとれた教育を展開し、豊かな人間性とたくましい体を育むとともに、児童が自ら学び、自ら考える力などの「生きる力」を育んでいます。

### (3) 幼児期の教育と児童期の教育の比較

	幼児期の教育	児童期の教育
教育課程の基準	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領	小学校学習指導要領
	健康、人間関係、環境、言葉、表現(5領域)	国語、社会、算数、理科、生活、音楽、図画工作、家庭、体育、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動
教育課程の構成原理	経験カリキュラム (一人一人の生活や経験を重視)	教科カリキュラム (学問の体系を重視)
	方向目標 (その後の教育の方向付けを重視)	到達目標 (具体的なもう表への到達を重視)
教育の方法等	遊びを通した総合的な指導	教科等の目標・内容に沿って選択された教科による指導
学びの形態	学びの芽生え(無自覚な学び) 学ぶことを意識していないが、楽しいこと、好きなことに集中することを通じて、様々なことを学んでいくこと	自覚的な学び 学ぶことについての意識があり、与えられた課題を自分の課題として受け止め、計画的に学習を進めていくこと

## 2 幼児教育における「見方・考え方」

幼児期は、幼児一人一人が異なる家庭環境や生活経験の中で、自分が親しんだ具体的なものを手掛かりにして、自分自身のイメージを形成し、それに基づいて物事を感じ取ったり気付いたりする時期です。「見方・考え方」も園生活全体を通して、一人一人の違いを受け止めて培うことが大切です。

幼児教育における「見方・考え方」は、幼児がそれぞれの発達に即しながら身近な環境に主体的に関わり、心動かされる体験を重ね、遊びが発展し生活が広がる中で、環境との関わり方や意味に気付き、これらを取り込もうとして、諸感覚を働かせながら、思考錯誤したり、思いめぐらしたりすることです。

また、このような「見方・考え方」は、遊びや生活の中で幼児理解に基づいた教職員による意図的、計画的な環境の構成の下で、教職員や友達と関わり、様々な体験をすること



を通して、広がったり深まったりして修正・発展していくものです。

このような様々な体験等を通して培われた「見方・考え方」は、小学校以降において、各教科等の「見方・考え方」の基礎になるとともに、これらを統合化することの基礎ともなるものです。

### 3 幼児教育において育みたい資質・能力の整理と、小学校の各教科等とのあり方

幼児教育においては、幼児期の特性から、この時期に育みたい資質・能力は、小学校以降のような、いわゆる教科指導で育むのではなく、幼児の自発的な活動である遊びや生活の中で、感性を働かせて良さや美しさを感じ取ったり、不思議さに気付いたり、できるようになったことなどを使いながら、試したり、いろいろな方法を工夫したりすることなどを通じて育むことが重要です。このため、資質・能力の3つの柱を幼児教育の特質を踏まえ、より具現化すると、以下のように整理されます。

- ◇「知識・技能の基礎」(遊びや生活の中で、豊かな体験を通じて、何を感じたり、何に気付いたり、何が分かったり、何ができるようになるのか)
- ◇「思考力・判断力・表現力の基礎」(遊びや生活の中で、気付いたこと、できるようになったことなども使いながら、どう考えたり、試したり、工夫したり、表現したりするか)
- ◇「学びに向かう力・人間性等」(心情、意欲、態度が育つ中で、いかによりよい生活を営むか)

幼児教育の特性から、幼児教育において育みたい資質・能力は、個別に取り出して身に付けさせるものではなく、遊びを通しての総合的な指導を行う中で、「知識・技能の基礎」、「思考力・判断力・表現力の基礎」、「学びに向かう力・人間性等」を一体的に育てることが重要です。

### 4 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

5領域の内容等を踏まえ、5歳児修了時までには育ってほしい具体的な姿を資質・能力の3つの柱を踏まえつつ明らかにしたものが、以下の「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」です。

#### (1) 健康な心と体

幼児期の生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。

## (2) 自立心

身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。

## (3) 協同性

友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。

## (4) 道徳性・規範意識の芽生え

友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。

## (5) 社会生活とのかかわり

家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、保育施設内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。

## (6) 思考力の芽生え

身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。

## (7) 自然との関わり・生命尊重

自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることを覚えるようになる。

#### (8) 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。

#### (9) 言葉による伝え合い

先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。

#### (10) 豊かな感性と表現

心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

この「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、5領域の内容等を踏まえ、特に5歳児の後半にねらいを達成するために、教職員が指導し、幼児が身に付けていくことが望まれるものを抽出し、具体的な姿として整理したものであり、それぞれの項目が個別に取り出されて指導されるものではありません。もとより、幼児教育は環境を通して行うものであり、とりわけ、幼児の自発的な活動としての遊びを通して、これらの姿が育っていくことに留意する必要があります。

さらに、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、5歳児後半の評価の手立てとなるものでもあり、幼稚園等と小学校の教職員が持つ5歳児の修了時の姿が共有されることにより、幼児教育と小学校教育との接続の一層の強化が図られることが期待できます。

小学校の各教科等においても、生活科を中心としたスタートカリキュラムの中で、合科的・関連的な指導や短時間での学習などを含む授業時間や指導の工夫、環境構成等の工夫を行うとともに、子どもの生活の流れの中で、幼児期の終わりまでに育った姿が発揮できるような工夫を行いながら、幼児期に育まれた資質・能力を徐々に各教科等の特性に応じた学びにつなげていく必要があります。

幼児教育において、幼児の自発的な活動としての遊びは、心身の調和のとれた発達の基礎を培う重要な時期です。義務教育において、子ども達の主体的・協同的な活動、習得・活用・探究という学びの過程の重要性が提言されており、幼児教育においても、それらを踏まえ、幼児期と児童期の学びの過程を意識した指導が重要です。

また、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」については、家庭についても、その周知を図っていくことが求められます。

## 5 接続期に育てたい3つの力

幼児教育において育みたい資質・能力を踏まえ、本市では、接続期に育てたい力を「生活する力」、「人とかかわる力」、「学ぶ力」の3つとしました。(図1)

### 【生活する力】

自分のことは自分でできるようになったり、環境の変化に対応できるようになったりするために必要な生活習慣等に関する力です。小学校入学期においては、新しい環境に適応していく力も求められます。

### 【人とかかわる力】

相手に自分の気持ちを言葉で伝えたり、相手の気持ちを受け止めたりしながら人間関係を築いていくために必要な力です。集団生活を送る上で必要な規範意識もこの中に含まれます。

### 【学ぶ力】

学びに対する興味・関心や心情・意欲等の力です。幼児期においては、教育要領等に基づいて保育者が意図的に整えた環境を通して、遊びや生活の中で身に付けていくものです。児童期においては、学習指導要領に基づいて教師が各教科等のねらいに即した授業を展開し、知識・技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力・人間性等を育みます。

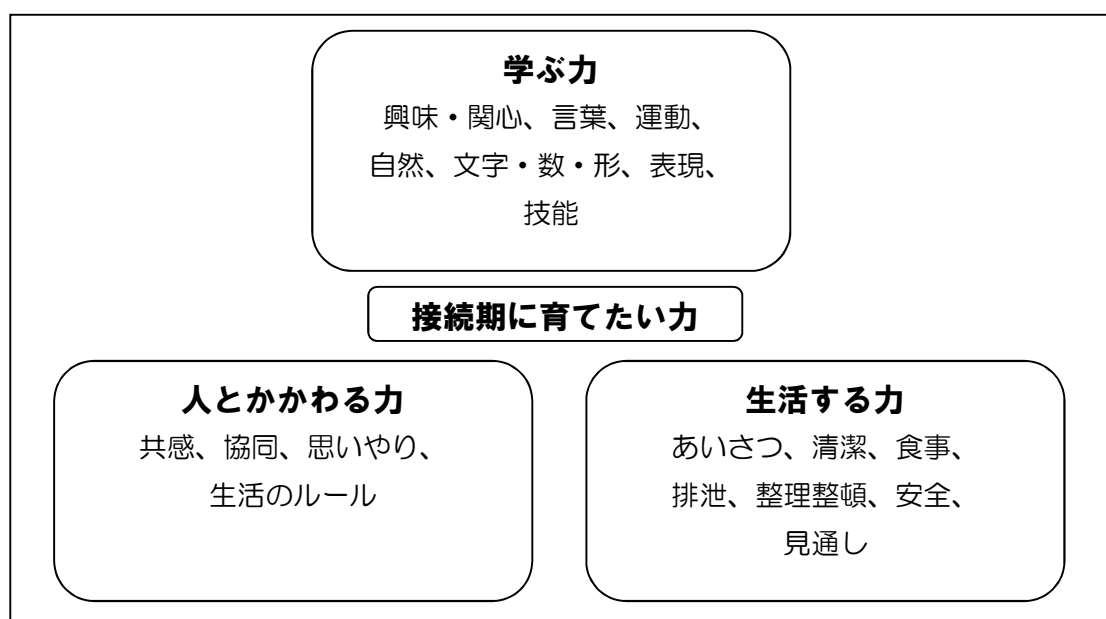
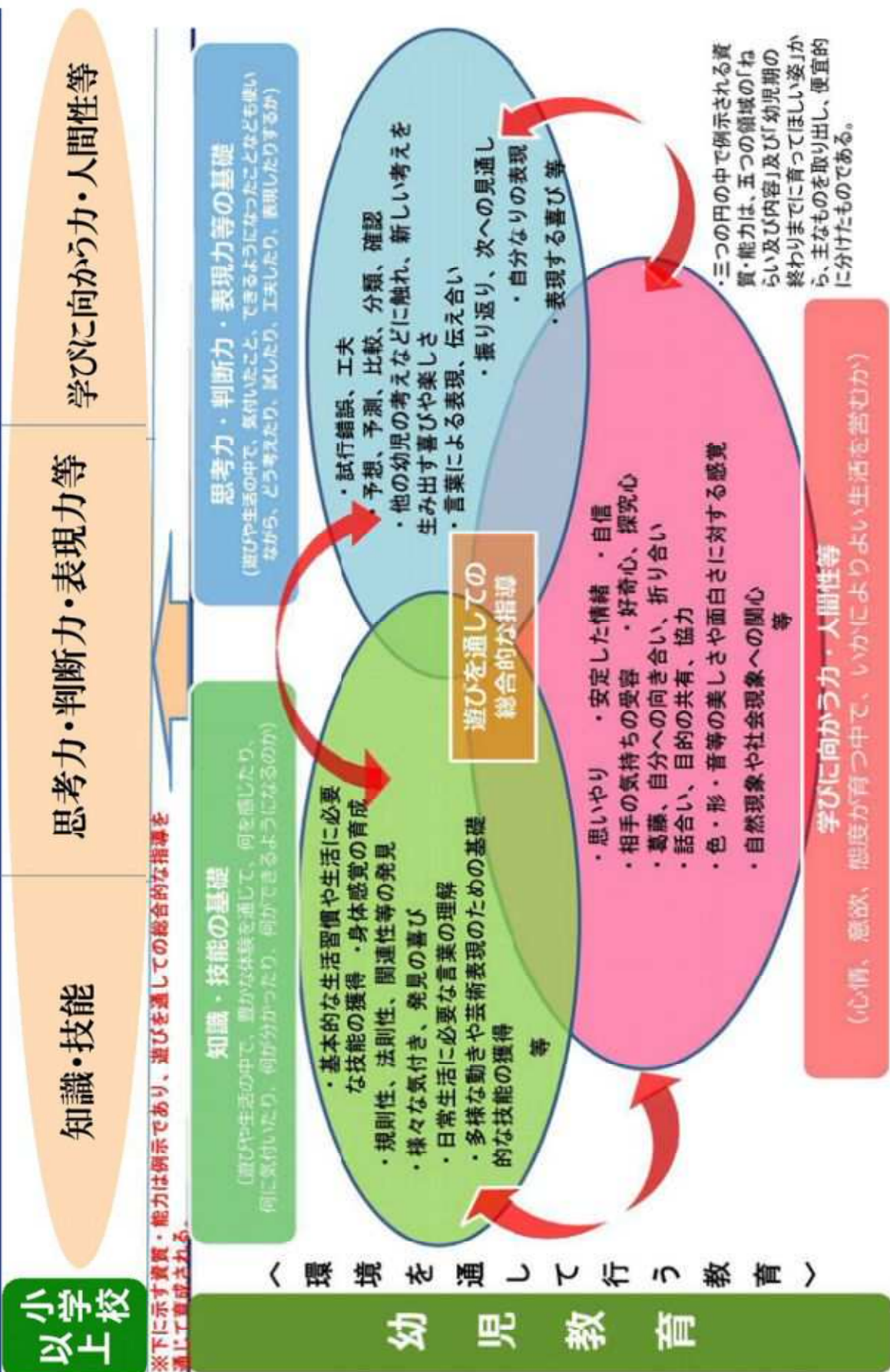


図1 接続期に育てたい力

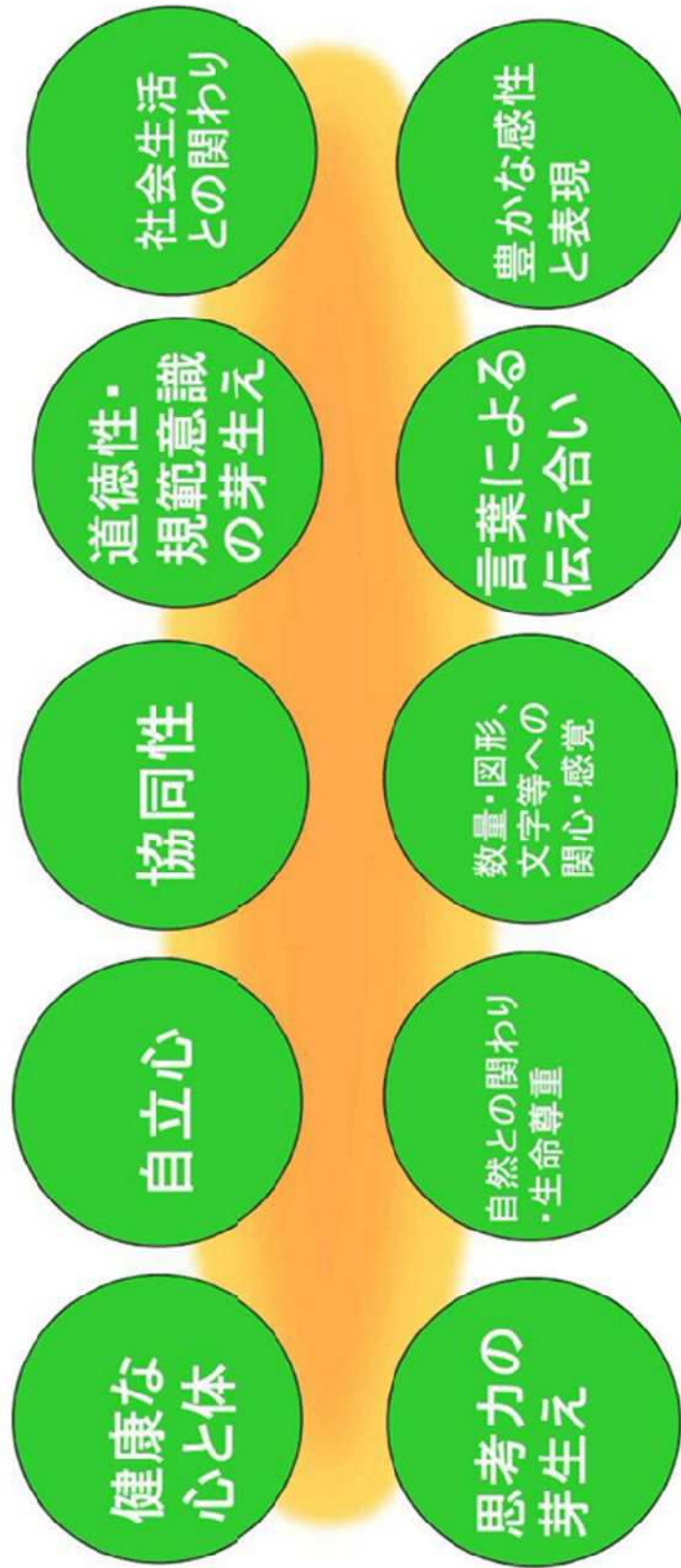
# 幼児教育において育みたい資質・能力の整理



参考資料：「幼児教育部会における審議の取りまとめ」中央教育審議会（H28.8.26）



## 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の整理イメージ

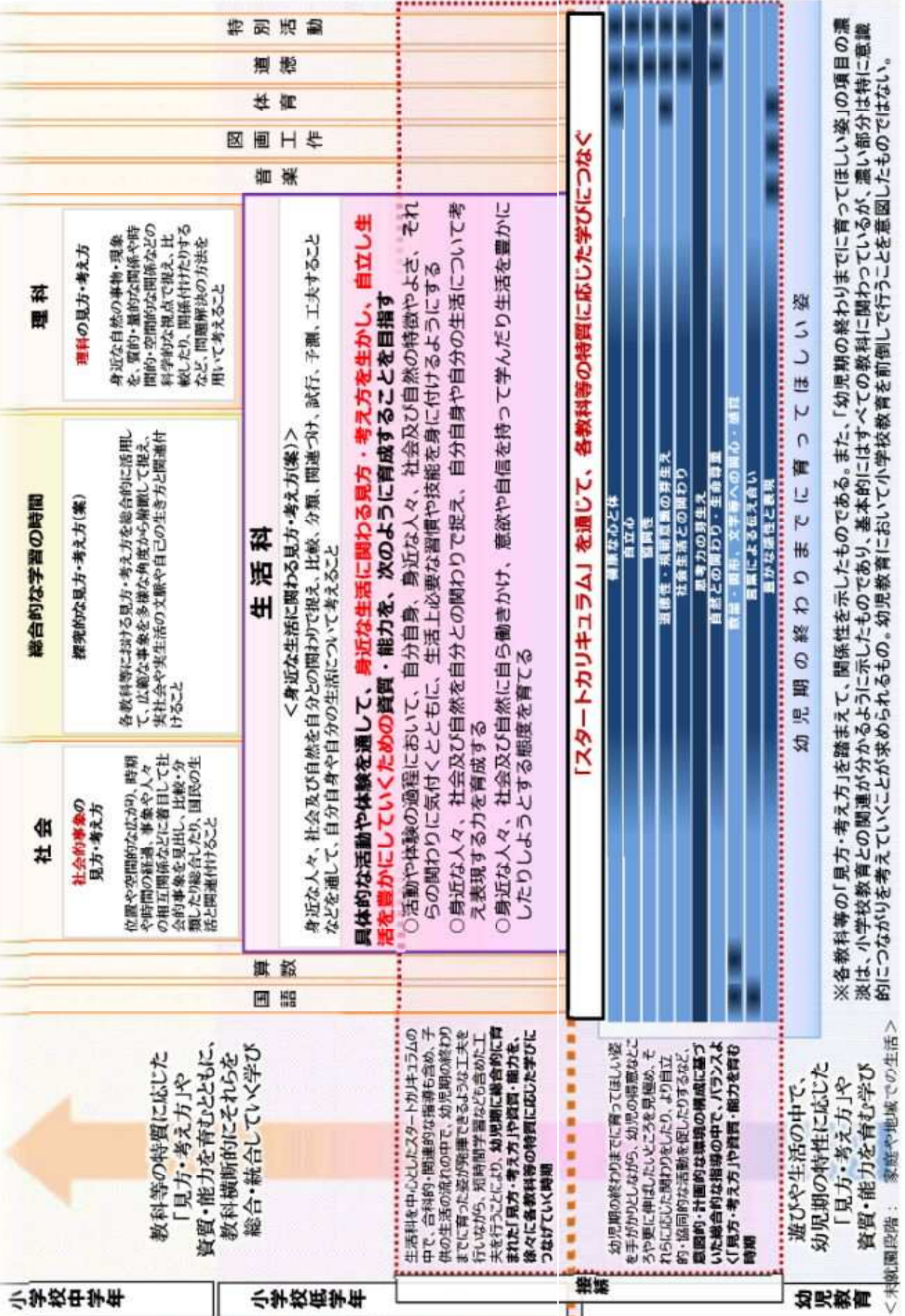


### 幼児期の終わりまでに育ってほしい幼児の具体的な姿(※)

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性の芽生え	規範意識の芽生え	いろいろな人とのかかわり
思考力の芽生え	自然とのかかわり	生命尊重・公共心等	数量・図形・文字等への関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

※「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について(報告)」(平成22年11月11日)に基づく整理。

# 生活科における教育のイメージ



参考資料：「幼児教育部会における審議の取りまとめ」中央教育審議会（H28.8.26）

## 第4章 接続カリキュラム（アプローチ・スタートカリキュラム）

現在、尼崎市には、公立保育所、私立保育所、公立幼稚園、私立幼稚園、私立認定こども園など、様々な就学前教育施設があります。小学校へ入学する子ども達は、それまでの生活経験や保育内容も多様であることから、子ども達を受け入れる小学校は、それらの就学前教育施設がどのような保育・教育を行っているのかを知ることがとても重要です。また、保育所と幼稚園においても、それぞれの施設がどのように子どもの育ちを支援しているのかを把握し、共通点・相違点を認識することで、小学校がどのような体制で子ども達を受け入れているのかが見えてくるはずです。そのためには、それぞれの教育内容を知るとともに、長期的・継続的な子どもの学びと育ちを軸とした視点が必要になります。

### 1 乳・幼児期から児童期の発達段階

子どもの成長には個人差はあるものの、小学校入学時には、自分なりのめあてに向かって、新しいことに挑戦しようとしたり、失敗しても繰り返し取り組もうとしたりする姿が見られるようになります。そして、時間や遊びに見通しを持って活動したり、自分の思いを伝えたり友だちの考えを受け入れたりしながら遊ぶようになります。

こうした子どもの発達過程には、その順序性において、共通して見られる特徴があり、成長するに伴い視野が広がるとともに、認識力が高まり、自己探求や他者とのかかわりを深めていきます。そのためには、発達段階に応じた生活や活動を十分に経験することが必要です。



◆ 発達の特徴と育ちの連続性

年齢	0歳児	1歳児	2歳児
年齢の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安心できる大人に見守られながら、自分の欲求を表現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大人との安定した関係のもとで、周囲の人や物に興味を示したり、自分から身近な大人に関わろうとしたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大好きな人の中で自我が芽生える。</li> <li>・感情が揺れ動く時期で「いやいや」「みてみて」「自分で」を主張する。</li> </ul>
幼児の姿とねらい	<p><b>○安心できるよ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大人との関係のもと、優しく語りかけられたり、抱かれたり、あやされたりなどのスキンシップを通して安心感を持つ。</li> </ul> <p><b>○大好きな大人と一緒にうれしいな</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高ばいや、伝い歩きをして、大人に喜んでもらうことがうれしい。</li> <li>・大人と1対1でまねをしておもしろがる。</li> <li>・ひっぱったり、つまんだりなどするおもちゃで遊ぶことが楽しい。</li> </ul> <p><b>○どんどん大きくなるよ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食べたいものを指さし「マンマ」と要求したり、手づかみで食べようとしたりする。</li> </ul>	<p><b>○大好きな大人と一緒にだったらやってみようかな？</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安心できる大人に援助されながら生活に必要な習慣を少しずつ身につける。</li> <li>・歩行が安定し自分の意志での移動を楽しむ。</li> </ul> <p><b>○自分で食べたいな</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こぼしながらもスプーンを使って食べようとする。</li> </ul> <p><b>○せんせい大好き！</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大人に見守られながら、好きな遊びをしたり、友だちと同じことをしたりして楽しむ。</li> <li>・大人に甘えたり、してほしいことを求めたりして、要求が満たされたり受け入れられたりすることを喜ぶ。</li> </ul> <p><b>○なんだろう？これなあに？</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろなものに興味を持って、見たり、触れたりして遊ぶことを喜ぶ。</li> <li>・見たこと、思ったことを指さしや身振り、片言などで示したり、「ブーブーきた」などの二語文や「イヤ」などの拒否を表す言葉で伝えたりする。</li> </ul>	<p><b>○何でも自分でするの！</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大人に見守られながら身の回りのこと（生活習慣）が徐々にできるようになる。</li> </ul> <p><b>○せんせい見えて！</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大人に見守られながら自分ひとりでできたことを喜ぶ。</li> <li>・思い通りにいかないこともあるが、何でも自分でしてみようとする。</li> </ul> <p><b>○まねっこ大好き！</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・周りの人の行動に興味を示し、さかんに真似て遊ぶようになる。</li> <li>・砂などを食べ物に見立てたり、お母さんなどのつもりになったりして遊ぶことを楽しむ。</li> <li>・大人や友だちと簡単な言葉のやりとりを楽しむ。</li> </ul>
具体的活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生活のリズムがつきはじめる。</li> <li>・手づかみで食べる。</li> <li>・おむつを替えてもらう。</li> <li>○安心できる大人と過ごす。</li> <li>・抱っこしてもらう。</li> <li>・あやされたり、語りかけられたりする。</li> <li>・ひなたぼっこや散歩に連れて行ってもらう。</li> <li>・名前を呼ばれて「はい」と答える。</li> <li>・「ちょうだい」「どうぞ」のやりとりをする。</li> <li>・大人のまねをして遊ぶ。</li> </ul> <p>（いないいないばあ、ボールころがし、布（かくし）遊び、まてまて、ひっぱり遊び、ぼっとん落とし、はずす遊び（マジックテープ）、ガラガラ、マラカスなど）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生活リズムをつける。</li> <li>・決められた時間に食事、睡眠をしたり、排泄を促したりする。</li> <li>○大人とのふれあい遊びをする。</li> <li>・まねっこ遊び、手遊び、リズム遊び、わらべうた遊びをする。</li> <li>○野外遊びをする。</li> <li>・砂遊びをする。</li> <li>・移動遊具で遊ぶ。（ミニ自動車等）</li> <li>○室内遊びをする。</li> <li>・ひも通し、プレイマット等、指先を使った遊びをする。</li> <li>・積み木、ブロック等の構成遊びをする。</li> <li>・好きな絵本を繰り返し読んでもらったり、自分で見たりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生活習慣が身につき始める。</li> <li>・したくになると大人に伝えてトイレに行き、排泄をする。</li> <li>・スプーンやフォークを持つて食事をする。</li> <li>・簡単な衣服を援助されて着脱しようとする。</li> <li>○大人とふれあい遊びをする。</li> <li>・簡単な繰り返しのある絵本を喜んで見たり、読んでもらったりする。</li> <li>・身の回りのことを簡単な言葉で話す。</li> <li>・まねっこ遊びやわらべうた遊びをする。</li> <li>○野外遊びをする。</li> <li>・砂遊びをする。</li> <li>・移動遊具で遊ぶ。（ミニ自動車、三輪車、スケーター等）</li> <li>○室内遊びをする。</li> <li>・ままごと等の遊びをする。</li> <li>・知っている歌を歌う。</li> <li>・偶然にできた形に命名したり、いろいろな色を使って遊んだりする。</li> </ul>

年齢	3歳児	4歳児	5歳児
年齢の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己主張が育ちと特定の友だちとのつながりがでてくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いろいろなことをやってみようとする気持ちが芽生える。</li> <li>友だちとの関わりを求め、一緒に遊びを進めるようになる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分なりのめあてに向かって、挑戦したり、繰り返し取り組んだりする。</li> <li>活動の見通しがつき、友だちの思いや考えを受け入れて遊ぶようになる。</li> </ul>
幼児の姿とねらい	<p><b>○自分でできるよ！</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>身の回りのこと（生活習慣）が自分でできるようになり、認めてもらうことで、自信を持ち始める。</li> </ul> <p><b>○友だち大好き！</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>特定の友だちのかかわりが増え、一緒にいることを喜ぶ。</li> <li>ぶつかり合いが多くても、自分の思いを通そうとする。</li> </ul> <p><b>○なぜ？どうして？</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>物の名前やそれが何なのかを知りたがるようになる。</li> </ul> <p><b>○おしゃべりだいすき！</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の思いや経験したことを言葉で伝えようとする。（話し言葉の基礎ができる）</li> </ul> <p><b>○ごっこ遊びがはじまるよ！</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分のやりたい役になって遊ぶ。</li> </ul>	<p><b>○身の回りのことが自分でできるよ！</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な生活習慣が身に付き始め、できることが広がる。</li> </ul> <p><b>○みんなといると楽しいな！</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分のしたい遊びで集まり、自分自身や友だちとの遊びに没頭する。</li> <li>自分のしたいことをはっきり持ち、友だちとケンカになっても、時間をおくと、また一緒に遊びを再開できる。</li> </ul> <p><b>○よく見て、よく聞くよ！</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>身の回りのものに興味を持ってよく見ようとする。</li> <li>興味を持ったこと、疑問に思ったことを聞き、自分のイメージを持って話すようになる。</li> <li>友だちと言い合いながら相手の思いに気づき、自分はどうしようかと考える。</li> </ul> <p><b>○やってみよう！試してみよう！</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>身体の動きが巧みになり、いろいろな動きができる。</li> <li>自然や身近な事物に興味を持ち、自分から関わりやってみようとする。</li> </ul>	<p><b>○一日の流れに見通しを持って自分のことができるよ！</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>身の回りのことを進んでするとともに、見通しを持って自分たちで遊びを進めていこうとする。</li> </ul> <p><b>○力を合わせて遊ぼう！</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>遊びを持つとおもしろくするために、相談し、ルールをつくったり守ったりする。</li> <li>課題に向けて自分の役割をやりとげる。</li> </ul> <p><b>○考えを出し合って遊びを進めたい！</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>相手の気持ちが分かるように聞いたり、相手に分かるように話したりする。</li> <li>数人の友だちと相談し、互いに納得し解決して遊びを進める。</li> </ul> <p><b>○私ってすごい！友だちもすごい！</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>友だちとの関わりの中で自分のよさと相手のよさを分かって互いを認め合う。</li> </ul> <p><b>○これなんだろう！挑戦してみよう！工夫してみよう！わかった！</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>身近なものに積極的に関わり、知的好奇心を高める。</li> <li>自分なりの課題を持って運動遊びに取り組む。</li> <li>絵本や人の話など見たり聞いたりしてイメージを広げ、表現することを楽しむ。</li> <li>身近な文字などで伝える楽しさや、数量や図形などに関心を持つ。</li> </ul>
具体的活動	<p>○生活習慣を身につける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>手洗い、トイレの使い方、衣服の着脱、食事、返事や挨拶</li> </ul> <p>○戸外遊びをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>追いかけたり、追いかけられたりして遊ぶ。</li> <li>ジャングルジム、すべりだい、スクーター、三輪車などの遊具で遊ぶ。</li> <li>砂、土、泥水遊びをする。</li> </ul> <p>○室内遊びをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の思いを自分なりの言葉で話す。</li> <li>絵本や紙芝居などを読んでもらったり見たりする。</li> <li>歌を歌ったり、動物になって体で表現したり、リズム遊びをする。</li> <li>自由に絵を描いたり、つくったりする。</li> </ul>	<p>○生活習慣を身につけ、自分でしようとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>手洗い、トイレの使い方、衣服の着脱の仕方がわかる。</li> <li>食事のマナーや正しい箸の使い方がわかる。</li> </ul> <p>○戸外遊びをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新しい活動に取り組もうとする。（ジャングルジム、すべりだい、縄跳び、竹馬、ボール遊び、フープなど）</li> <li>友だちと一緒に体を動かす遊びをする。（鬼ごっこ、かけっこなど）</li> <li>水、砂、泥の感触を味わいながら遊ぶ。（泥団子、色水あそびなど）</li> </ul> <p>○室内遊びをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ままごと、積み木、ブロック、粘土など好きな遊びを見つけて遊ぶ。</li> <li>気の合う友だちと、遊びのイメージを共有してごっこ遊びをする。</li> </ul>	<p>○生活習慣を身につけ、自分から進んで行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分から進んで、手洗い、うがい、衣服の調整、鼻をかむなどをする。</li> <li>箸を正しく使う。</li> </ul> <p>○戸外遊びをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>課題を持って活動に取り組む。（竹馬、跳び箱、鉄棒など）</li> <li>自分達でルールを作って体を動かす遊びをする。（鬼ごっこ、サッカーなど）</li> <li>水、砂、泥の特性に気づいて遊ぶ。</li> </ul> <p>○室内遊びをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>遊びに必要なものを考えたり、つくったりしながらごっこ遊びをする。</li> <li>自由に表現することの楽しさを感じる。（ダンス、表現遊び、劇ごっこなど）</li> </ul>

## 2 児童期につながる幼児期につけたい力

### (1) 子どもの生活をつなぐ（生活する力）

子どもの健やかな成長には、健康で安全な習慣や態度、自立した生活を送れるだけの力が必要です。また、のびのびと体を動かし活動するときや、豊かな自然と触れ合うときに、自ら学び考える力、表現する力、人とかかわる力が培われます。

基本的な生活習慣の定着、自主・自律は、これから子ども達が、よりよい生活を送るための基盤となることはもちろん、学習習慣にも大きな影響を与えます。保護者とも連携しながら、継続的な取組が必要です。

### (2) 自己と他者をつなぐ（人とかかわる力）

子ども達にとって、「仲間」はとても大きな存在です。幼児教育でも小学校教育でも、困ったこと、楽しいこと、新しい発見など、「仲間」とともに共有したり、解決したりする姿が様々な場面で見られます。保育所・幼稚園等では、この他者とのかかわりのプロセスを「協同の学び」としています。他者とは、順番を競う相手でもなく、比較される対象でもありません。自分と仲間がつながることで生まれる発展的な遊びや課題解決などの経験を通して、達成感や自尊感情を育み、それらを小学校の新しい学びの世界につなげていくことが必要です。

### (3) 学びの体験をつなぐ（学ぶ力）

就学前教育は、「遊び」を中心とし、体験を通した学びを大切にしています。この「遊び」とは、ただの遊びではなく、子どもが自ら選択し、体験し、探究するという学びの体験としての「遊び」です。幼児教育は、遊びを通して「人・もの・こと」とかかわり、そこから気づきや達成感を味わいます。「遊び」を通して行う体験そのものが「学び」なのです。

### 3 幼保小接続（アプローチ・スタート）カリキュラム【生活する力・人とかかわる力・学ぶ力】

3つの力	アプローチ（11月～3月）		幼児期の終わりにまでに育ってほしい姿	小学校入学時の子どもの姿	スタート（4月～7月）		主な関連教科・内容
	力の分類	力を育むための活動的な内容			力の分類	力を育むための活動的な内容	
生活する力	あいさつ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ <b>日常生活に必要なあいさつを遣う</b></li> <li>・保育者や友だち、周りの人とあいさつをする</li> <li>・その場に応じたあいさつをする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①健康な心と体</li> <li>⑨言葉による伝え合い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教師や友だちとあいさつをしている</li> <li>◇初めての人や場所などであいさつしづらいことがある</li> </ul>	あいさつ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ <b>状況に応じて自分からあいさつをする</b></li> <li>・先生や友だちと元気なあいさつをする</li> <li>・生活に必要なあいさつをする</li> </ul>	全ての教科、領域につながる学びの基礎
	清潔	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ <b>身の回りを清潔に保つことへの心地よさを感じ、清潔にする方法を身につける</b></li> <li>・ハンカチ、ティッシュを必要に応じて使う</li> <li>・こぼしたら拭く、こみを捨てるなど、身の回りを清潔にする</li> <li>・手洗いうがい、鼻汁をかむなどの大切さが分り自分でする</li> <li>・生活用具（ほうきやちりとり、雑巾など）の使い方を知り、身の回りを清潔にする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①健康な心と体</li> <li>②自立心</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○身の回りを清潔にすることの大切さが分っている</li> <li>◇ハンカチ・ティッシュを持っていないこともある</li> </ul>	清潔	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ <b>身の回りを清潔にしようとする</b></li> <li>・ハンカチ、ティッシュを持ち、必要に応じて使う</li> <li>・生活用具を使う</li> </ul>	
	食事	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ <b>食に興味を持ち、楽しんで食べる</b></li> <li>・食事のマナーや箸の持ち方を意識して食べる</li> <li>・一定時間内（30分くらい）で食事をすする</li> <li>・お腹がすいた、食べたいという気持ちを持って食べる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①健康な心と体</li> <li>②自立心</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○友だちと楽しく給食を食べる</li> <li>◇自分の食べられる量が分からず、残してしまう</li> </ul>	食事	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ <b>マナーを守って楽しく食べる</b></li> <li>・自分の食べられる量が分かる</li> <li>・箸を正しく持つ</li> <li>・一定時間で食べる</li> <li>・苦手な物も少しは食べようとする</li> </ul>	
	排泄	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ <b>排泄の区切りや行きたい時にトイレに行き排泄する</b></li> <li>・トイレには和式・洋式があることが分かる</li> <li>・トイレの使い方が分かる（戸を開める、水を流す、紙で拭くなど）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①健康な心と体</li> <li>②自立心</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○トイレの使い方が分かる</li> <li>◇和式トイレが使いづらい</li> <li>◇トイレに行きたいことが伝えられないことがある</li> </ul>	排泄	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ <b>トイレの使い方が分かる</b></li> <li>・休み時間に自分でトイレに行く</li> <li>・行きたくないなら伝えてトイレに行く</li> </ul>	
	整理整頓	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ <b>自分の持ち物や身の回りの整理整頓をしようとする</b></li> <li>・自分の持ち物を自分で管理する</li> <li>・気温や活動に応じて衣服の調節をしようとする</li> <li>・衣服の乱れに気付き整えたり、自分で衣服をたたんだりする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①健康な心と体</li> <li>②自立心</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の持ち物は自分で整理整頓する</li> <li>◇自分の持ち物が分からないことがある</li> </ul>	整理整頓	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ <b>自分の持ち物や身の回りの整理整頓をする</b></li> <li>・自分で持ち物の準備や片付けをする</li> <li>・衣服の調節をしたり、整えたりする</li> </ul>	
	安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ <b>危険なことが分かり、約束を守って安全に行動しようとする</b></li> <li>・遊具の使い方を知り、安全に遊ぶ</li> <li>・用具（はさみや傘など）の使い方が分かり、安全に扱う</li> <li>・簡単な交通ルールや乗り物を利用する時のまきまきを守る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①健康な心と体</li> <li>④道徳性・規範意識の芽生え</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○危険なことが分かる</li> <li>◇危険なことに気付かない場合がある</li> </ul>	安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ <b>危険なことが分かって安全に行動する</b></li> <li>・交通ルール（通学路）を守って登下校する</li> <li>・安全に遊具・用具を使う</li> </ul>	
	見通し	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ <b>生活のリズムが整い、一日の見通しが持てるようになる</b></li> <li>・一日の生活の流れが分かる</li> <li>・時間を意識して（食事や片付けなど）行動する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①健康な心と体</li> <li>②自立心</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○チャイムの意味が分かる</li> <li>◇遊びに夢中になり、チャイムに気付かないことがある</li> </ul>	見通し	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ <b>一日の生活の流れが大体分かり、行動しようとする</b></li> <li>・チャイムで行動する</li> <li>・時計を見て、時間を意識する</li> </ul>	

3つの力	アプローチ（11月～3月）		幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	小学校入学時の子どもの姿	スタート（4月～7月）		主な関連教科・内容
	力の分類	力を育むための活動的な内容			力の分類	力を育むための活動的な内容	
人とかがわる力	共感	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 友だちとの関わりの中で、友だちのよさや苦手なことが分かったり、喜びや楽しさを共感したりする <ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちのいいところに気づき、それを伝えたり、自分もまねをしてやってみようとしたりする</li> <li>・一緒に活動する中で相手の気持ちを知ったり、自分の気持ちを分かってもらおうとしたりする</li> <li>・友だちの苦手なことが分かったり、失敗を受け止めようとしたりする</li> </ul> </li> </ul>	③協同性 ⑥思考力の芽生え	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇新しい友だちや担任とのかわりを受け入れ安心している</li> <li>◇新しい環境のため、まだ周囲は見えにくく、自分のことで精一杯になることもある</li> <li>◇新しい環境に不安を感じている友だちもおり、教師がそばにいると安心することもある</li> </ul>	共感	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 新しい友だちとの関わりの中で、友だちのよさや苦手なことが分かったり、喜びや楽しさを共感したりする <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分がクラスの一員であることを感じ、安心して学習に取り組む</li> <li>・友だちのよいところやできるようになったことを一緒に喜ぶ</li> </ul> </li> </ul>	全ての教科、領域につながる学びの基礎
	協同	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 友だちと一緒に遊ぶことの楽しさを感じる <ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちと一緒に遊びを考えたり、物を作ったりする</li> <li>・友だちと役割分担して遊びを進める</li> </ul> </li> <li>○ 友だちと共通の目的を持ち、それに向かって一緒に取り組もうとする <ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちと楽しく遊ぶために、ルールを考え合い、決めたルールを守ろうとする</li> <li>・友だちと協力して一つのことをやり遂げる</li> <li>・相手の気持ちが分かり、折り合いをつけながらグループとして決めていこうとする</li> <li>・相手の気持ちが分かり、自分なりに判断したり、感情をコントロールしたりしようとする</li> </ul> </li> </ul>	③協同性 ③協同性 ④道徳性・規範意識の芽生え ⑥思考力の芽生え	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇初めて出会う友だちが多いことで、話し合ったり、協力し合ったりする活動が成立しにくいこともある</li> </ul>	協同	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 友だちと一緒に学習や活動をする楽しさを感じる <ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい友だちに進んで関わろうとする</li> </ul> </li> <li>○ 相手の気持ちに気付いたり、自分の気持ちを分かってもらおうとしたりする <ul style="list-style-type: none"> <li>・困ったことや分からないことがあると聞いたり、伝えたりしようとする</li> </ul> </li> <li>○ 友だちと共通の目的を持ち、それに向かって一緒に取り組む <ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちのアイデアを取り入れ、同じ目的の作業を一緒にしようとする</li> <li>・トラブルが起きた際、自分たちで話し合って解決しようとする</li> </ul> </li> </ul>	
	思いやり	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 友だちの力になろうとする <ul style="list-style-type: none"> <li>・困っている友だちに対して、優しく見守ったり接したりする</li> <li>・年下の子どもにいたわりの気持ちを持って関わる</li> </ul> </li> <li>○ 自分や友だちの命を大切にする</li> </ul>	④道徳性・規範意識の芽生え ⑤社会生活との関わり ⑤社会生活との関わり ⑦自然との関わり・生命尊重	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇困っている友だちがいたら、教師に伝える</li> </ul>	思いやり	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 友だちの力になろうとする <ul style="list-style-type: none"> <li>・困っている友だちに対して、優しく見守ったり接したりする</li> </ul> </li> <li>○ 自分や友だちの命を大切にする</li> </ul>	
	生活のルール	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ みんなが心地よい生活をするためのきまりの大切さが分かり守ろうとする <ul style="list-style-type: none"> <li>・一つひとつのルールの必要性が生活する中から分かる</li> <li>・きまりやルールを守る</li> <li>・相手の立場に立って考え、行動する</li> </ul> </li> <li>○ 集団生活に必要な言葉の意味が分かり使える <ul style="list-style-type: none"> <li>・してもらったり、教えてもらったりしたことに感謝の気持ちを伝える</li> <li>・いけないことをしたと分かったら相手に謝る</li> <li>・名前を呼ばれたら返事をする</li> </ul> </li> <li>○ 公共物や共同の物を大切にすることが分かる <ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなで使う物を大切に使う</li> </ul> </li> <li>○ 地域の人や異年齢の子どもと関わることを楽しみ親しみを持つ <ul style="list-style-type: none"> <li>・他の保育所や幼稚園、小学校の子どもと交流することを楽しむ</li> <li>・地域には高齢者や障がいのある人、外国の人など様々な人がいることを知る</li> <li>・身近な社会の人や職業に関心を持つ</li> </ul> </li> </ul>	④道徳性・規範意識の芽生え ⑤社会生活との関わり ④道徳性・規範意識の芽生え ⑨言葉による伝え合い ④道徳性・規範意識の芽生え ⑤社会生活との関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇学校のきまりを知る</li> <li>◇ルールが分からず、友だちとトラブルになる</li> </ul>	生活のルール	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ みんなが心地よい生活をするためのきまりの大切さが分かり、守ろうとする <ul style="list-style-type: none"> <li>・チャイムやその他の学校のきまりが分かり、守ろうとする</li> <li>・当番活動などの役割が分かり、取り組もうとする</li> <li>・してはいけないことや言ってはいけないことを自分で判断しようとする</li> </ul> </li> <li>○ 集団生活に必要な言葉の意味が分かり、使える <ul style="list-style-type: none"> <li>・名前を呼ばれたら返事をする</li> <li>・してもらったり、教えてもらったりしたことに感謝の気持ちを伝える</li> </ul> </li> <li>○ 公共物や共同の物を大切にすることが分かる <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校のことを大切に扱うことができる</li> </ul> </li> </ul>	

3つの力	アプローチ（11月～3月）		幼児期の終わりにまでに育ってほしい姿	小学校入学時の子どもの姿	スタート（4月～7月）		主な関連教科・内容		
	力の分類	力を育むための活動的な内容			力の分類	力を育むための活動的な内容			
学 ぶ 力	心 情 意 欲	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 身近な物に興味を持ち、好奇心を持って見たり、関わったりする</li> <li>○ 興味関心を持って、目的に向かって試行錯誤を繰り返しながら遊ぶ <ul style="list-style-type: none"> <li>一人または数人で、何度も試したり工夫したりする</li> <li>生活経験の中から遊びに必要なものを取り入れたり、不思議だと思ったことを調べたりする</li> <li>身の回りの物や出来事の特徴や関係をとらえようとする</li> <li>身近な物に興味関心を持って関わりながら予想や見通しをしようとする</li> <li>新たな気付きを友だちや周囲の大人に伝え、さらに展開させようとする</li> </ul> </li> <li>○ 自分のやりたいことに対し、諦めずに取り組み <ul style="list-style-type: none"> <li>苦手なことに対し、最後まで諦めずに続けようとする</li> <li>自制心を持って自分の気持ちを落ち着かせようとする</li> </ul> </li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 新しく勉強する内容に興味・関心を持ち、意欲的に取り組む</li> <li>◇集中力が続かず椅子に座って長時間学習することが難しいこともある</li> </ul>	関 心  意 欲  態 度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 身近な物に興味を持ち、好奇心を持って見たり、関わったりする</li> <li>○ 興味・関心を持って、ものや人と関わる <ul style="list-style-type: none"> <li>興味・関心のあることに対して、自分で工夫したり試したりして遊ぶ</li> <li>興味・関心のあることに対して、人に尋ねたり自分で調べたりする</li> </ul> </li> <li>○ 最後まで諦めずに取り組み <ul style="list-style-type: none"> <li>苦手なことや、初めてのことに取組もうとする</li> <li>失敗しても諦めずに何度も挑戦しようとする</li> </ul> </li> </ul>	全ての教科、領域につながる学びの基礎		
		言 葉	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分の思いや考えを相手に分かるように伝えようとする <ul style="list-style-type: none"> <li>したこと、見たこと、聞いたこと、感じたこと、考えたことなどを自分なりの表現や言葉で伝えようとする</li> <li>周囲の大人や友だちが使う様々な言葉や表現に興味関心を持ち、自分でもそれらを使ってみようとする</li> </ul> </li> <li>○ 大人や友だちの話しに興味・関心を持って聞く <ul style="list-style-type: none"> <li>友だちや周囲の大人の話をおこうとする</li> <li>相手の話す内容を自分なりに理解しようとして、相手の思いに気付こうとしたりする</li> <li>相手の話す内容を自分の生活や経験と結びつけながら聞こうとする</li> </ul> </li> <li>○ 遊びや生活の中で文字や絵に興味関心を持つ <ul style="list-style-type: none"> <li>絵本や物語を大人に読んでもらい楽しむ</li> <li>絵本や物語、図鑑などを自分から進んで読もうとする</li> <li>季節や天気を表す言葉や、色や様子を表す言葉など、生活の中で用いる言葉が持つリズムや美しさを味わう</li> </ul> </li> </ul>	①健康な心と体 ②自立心 ③協同性		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分の思いを相手に分かるように話そうとする</li> <li>○ 教師や友だちの話をおこうとする</li> <li>○ 絵本に興味を持って最後まで見る</li> <li>◇新しい集団の中では、恥ずかしかったり緊張したりして、話すことが難しいこともある</li> </ul>	言 葉	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分の思いや考えを相手に分かるように伝えようとする <ul style="list-style-type: none"> <li>名前を呼ばれたら返事をする</li> <li>友だちの名前を読み、顔と名前が一致する</li> <li>自分の名前や好きなものについて、みんなの前で話せる</li> <li>自分の経験したことや、思いや考えを自分なりの言葉で伝えようとする</li> <li>自分の思いや考えを相手に分かるように話す</li> <li>経験したことや想像したことなどについて、進んで書こうとする</li> </ul> </li> <li>○ 教師や友だちの話しに興味・関心を持って聞く <ul style="list-style-type: none"> <li>相手の話す内容を理解しようとして、相手の思いに気付こうとしたりする</li> <li>教師や友だちの話をも自分の生活や経験と結びつけながら聞こうとする</li> </ul> </li> <li>○ 言葉や絵に興味関心を持つ <ul style="list-style-type: none"> <li>言葉の持つリズムや美しさに気付き、楽しむ</li> <li>読書や読み聞かせを楽しむ</li> <li>文章を読んで大まかな内容を理解する</li> <li>書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりしながら読む</li> </ul> </li> </ul>	全教科、道徳、特別活動 国語（話すこと・聞くこと、書くこと）
			運 動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 幼児の興味や能力などに応じた遊びの中で、体を動かす心地よさを味わう <ul style="list-style-type: none"> <li>屋内、屋外で進んで体を動かす</li> <li>道具や用具の正しい使い方を知り、目的に応じて遊ぶ</li> <li>自分の体を動かしながら、ぶら下がる、逆さになる、回る、登るなどの運動に親しむ</li> <li>縄跳び、平均台、跳び箱、のぼり棒、うんていなどの用具や道具を用いて運動を楽しむ</li> </ul> </li> <li>○ 友だちと競い合ったり応援し合ったりして遊ぶ <ul style="list-style-type: none"> <li>友だちと一緒にボール遊びや長縄遊び、帽子取りや鬼ごっこなどの運動に親しむ</li> </ul> </li> </ul>		④道徳性・規範意識の芽生え ⑤社会生活との関わり		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 道具で喜んで遊ぶ</li> <li>○ 指示を聞いて集まったり並んだりする</li> <li>◇新しい環境のため人間関係がまだできておらず、一人で遊ぶこともある</li> </ul>	運 動
	自 然			<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 身近な自然や動植物に触れ、生命の尊さに気付く <ul style="list-style-type: none"> <li>四季の変化や自然の動植物に興味関心を持つ</li> <li>ウサギ、カメ、メダカなどの動物や、ジャガイモ、ダイコンなどの野菜、チューリップなどの草花などを自分たちで世話をする</li> <li>身近な自然や動植物に触れ、発見したり不思議に感じたりしたことを、友だちや周囲の大人に伝え合おうとする</li> </ul> </li> <li>○ 自分の住んでいる地域や伝統行事に親しむ <ul style="list-style-type: none"> <li>お正月遊びや伝承遊びを楽しむ</li> <li>自分の住んでいる地域の行事や文化に親しみ、興味関心を持つ</li> </ul> </li> </ul>	⑥思考力の芽生え ⑦自然との関わり・生命尊重	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 校内の生き物や植物に興味を持ち、草花を摘んだり虫を見つけたりする</li> </ul>		自 然	
		文 字 ・ 数 ・ 形	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 日常生活の中で数えたり、はかったりすることの便利さと必要性に気付き、関心を持って関わる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>遊びの中で、長さや重さをはかったり、比べたりすることを楽しむ</li> <li>ゲームやボール遊びの点数、縄跳びやプランコなどの回数を数えようとする</li> </ul> </li> <li>○ 遊びや生活に必要な物を、数字や文字で表そうとする <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の名前を読んだり書いたりしようとする</li> <li>友だちとの遊びを通して、看板やメニュー、値段などを読んだり書いたりしようとする</li> <li>友だちや家族とかるたやすごろく遊びをしながら、文字に親しんだり数を数えたりしようとする</li> <li>絵本や図鑑に親しみ、絵や写真、言葉から自分の思いや想像を広げ楽しんだり、生活の中で用いたりしようとする</li> </ul> </li> </ul>	⑨言葉による伝え合い ⑩豊かな感性と表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分の名前が読めたり書けたりする</li> <li>○ 必要に応じて数を数える</li> <li>◇ひらがなの書き順が違ったり横文字になったりすることもある</li> </ul>	文 字 ・ 数 ・ 形	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 日常生活の中で数えたり、はかったりすることの便利さと必要性に気付き、関心を持ってかかわる <ul style="list-style-type: none"> <li>生活の中で数えたり、読んだりする経験を通して、身近な数や文字に関心を持つ</li> <li>ものと、ものを対応させることによる、ものの個数を比べる</li> <li>個数や順番を正しく数えたり表したりする</li> <li>たし算やひき算をする</li> <li>時計を見て「〇時、〇時半」と分かる</li> </ul> </li> <li>○ 遊びや生活の中で、数や文字を用いわかりやすく表現しようとする</li> </ul>		国語（話すこと・聞くこと、読むこと、書くこと） 算数（数のしくみ、たし算、ひき算、時計の読み方）
	表 現		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分なりの思いやイメージを様々な方法で自由に表現することを楽しむ <ul style="list-style-type: none"> <li>自分なりの思いや願いを込めて、様々な方法で自由に表現する。（絵に描く、音楽で表現する、つくった物を使って遊ぶなど）</li> <li>活動の中で協力し合ったり、教え合ったりしながらイメージを広げ、それらを共有しながら遊ぶ</li> <li>ピアノや音楽に合わせて、歌ったり踊ったりすることを楽しむ</li> </ul> </li> <li>○ 目的に合わせて素材や道具などの特徴を生かして、自分なりに表現する <ul style="list-style-type: none"> <li>色々な素材を使って、イメージしたことにより近づけるように描いたりつくったりする</li> <li>はさみやのりなどを用いて、紙やペットボトル、トレイ、ひも等で、自分なりの思いを表現することを楽しむ</li> </ul> </li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 知っている歌を楽しく歌う</li> <li>○ 自分の思いを絵や工作等で表現する</li> <li>◇恥ずかしかったりイメージが持てなかったりして、自分なりの表現が難しいこともある</li> </ul>		表 現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分なりの思いやイメージを様々な方法で自由に表現することを楽しむ <ul style="list-style-type: none"> <li>音楽やリズムに合わせて、歌を歌ったり、表現したりすることを楽しむ</li> <li>自分の感じたことや思ったことを様々な方法で表現する</li> </ul> </li> <li>○ 目的に合わせて素材や道具などの特徴を生かして、自分なりに表現する <ul style="list-style-type: none"> <li>いろいろな材料を用いて、表現したいものをつくる</li> <li>目的に合わせて素材や道具などの特徴を生かして表現する</li> </ul> </li> </ul>	生活（がっこうたんけん、あさがおのかんさつ） 図工（描く、切る、貼る、折る、丸める等） 音楽（歌う、リズム遊び、表現遊び）
				<ul style="list-style-type: none"> <li>◇筆圧が弱かったり、バランスの取れた文字を書くのが難しかったりすることもある</li> <li>◇プリントの両端を合わせてたむことが難しいこともある</li> <li>◇長時間椅子に座ることに慣れておらず、姿勢の保持が難しいこともある</li> </ul>	技 能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 鉛筆を正しく持つ</li> <li>・ 両足を床につけ、背筋を伸ばして座る</li> <li>・ プリントの両端を合わせてたむ</li> <li>・ のりを使って、プリントや画用紙を丁寧に貼る</li> </ul>		全ての教科、領域につながる学びの基礎	

4 尼崎市幼保小接続(アプローチ・スタート)カリキュラム 記入枠

【〇〇校園所】 令和〇年度版

幼児期での 資質・能力	幼児教育・アプローチ期(11月～3月)		小学校入学時の 子どもの姿	小学校教育・スタート期(4月～7月)		小学校での 資質・能力
	3つ の力	力を育むための活動的な内容		力の分類	力を育むための活動的な内容	
生活する力	あいさつ 清潔 食事 排泄 整理整頓 安全 見通し	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活に必要なあいさつを進んでする</li> <li>身の回りを清潔に保つことの心地よさを感じ、清潔にする方法を身につける</li> <li>食事を楽しく食べる</li> <li>活動の区切りや行きたいトイレに行き排泄する</li> <li>自分の持ち物や身の回りの整理整頓しようとする</li> <li>危険なことが分かり、約束を守って安全に行動しようとする</li> <li>生活のリズムが整い、一日の見通しが持てるようになる ・時間を意識して行動する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師や友だちとあいさつをするが初めての人にじつらいこともある</li> <li>身の回りを清潔に保つことの大切さが分かっている</li> <li>友だちと楽しく給食を食べる自分の食べられる量が分からず、残してしまこともある</li> <li>トイレの使い方が分かる ◇和式トイレが使いづらい</li> <li>自分の持ち物は自分で整理整頓するが自分の持ち物が分からないことがある</li> <li>危険なことが分かる</li> <li>チャイムの意味が分かる</li> </ul>	あいさつ 清潔 食事 排泄 整理整頓 安全 見通し	<ul style="list-style-type: none"> <li>状況に応じて自分からあいさつをする</li> <li>身の回りを清潔にしようとする</li> <li>食事を楽しく食べる</li> <li>トイレの使い方がわかる ・休み時間に自分でトイレに行く</li> <li>自分の持ち物や身の回りの整理整頓をする</li> <li>危険なことがわかると安全に気を付けて行動する</li> <li>一日の生活のリズムが大体わかり行動しようとする ・チャイムで行動する</li> </ul>	知識及び技能 思考力・判断力・表現力等 学びに向かう力・人間性
	共感 協同 思いやり	<ul style="list-style-type: none"> <li>友だちとの関わりの中で、友だちのよさや苦手なことが分かったり、喜びや悲しみを共感したりする</li> <li>友だちと一緒に遊ぶことの楽しさを感じる</li> <li>友達と一緒に遊びを考えたり、物を作ったりする ・友達と役割分担して遊びを進める</li> <li>友だちと共通の目的を持ち、それに向かって一緒に取り組もうとする</li> <li>友達と楽しく遊ぶためにルールを考え合い決めたルールを守ろうとする</li> <li>相手の気持ちがわかると折り合いをつけながらグループとして決めていこうとする</li> <li>友だちの力になろうとする</li> <li>困っている友だちに対して優しく見守ったり接したりする</li> <li>自分や友だちの命を大切にする</li> <li>みんなが心地よい生活をするためのきまりの大切さがわかり守ろうとする</li> <li>きまりやルールを守る</li> <li>集団生活に必要な言葉の意味がわかり使える</li> <li>公共物や共同の物を大切にすることが分かる</li> <li>地域のしやと年齢のちがいをかかわることを楽しみ親しむ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新しい友だちや担任とのかわりを受け入れ安心している</li> <li>新しい環境のため、まだ周囲は見えにくく、自分のことで精一杯になることもある</li> <li>新しい環境に不安を感じている友だちもおり、教師がそばにいて安心することもある</li> <li>初めて出会う友だちとも話している</li> <li>友だちと一緒に遊びや学習を楽しむ</li> <li>初めて出会う友だちが多いことで、話し合ったり、協力し合ったりする活動が成立しにくいこともある</li> <li>困っている友だちがいたら、教師に伝える</li> <li>学校のきまりを知る</li> <li>ルールが分からず、友だちとトラブルになる</li> <li>「ありがとう」「ごめんさい」を言う</li> <li>みんな使う物を分かって大切にしている</li> </ul>	共感 協同 思いやり	<ul style="list-style-type: none"> <li>新しい友だちとの関わりの中で、友だちのよさや苦手なことが分かったり、喜びや悲しみを共感したりする</li> <li>自分がクラスの一員であると感じ、安心して学習に取り組む</li> <li>友だちと一緒に学習や活動をする楽しさを感じる</li> <li>新しい友だちに進んで関わろうとする</li> <li>相手の気持ちに気付いたり、自分の気持ちを分かってもらおうとしたりする</li> <li>困ったことや分からないことがあると聞いたり、伝えたりしようとする</li> <li>友だちと共通の目的を持ち、それに向かって一緒に取り組む</li> <li>友だちのアイデアを取り入れ、同じ目的の作業を一緒にしようとする</li> <li>友だちの力になろうとする</li> <li>自分や友だちの命を大切にしている</li> <li>みんなが心地よい生活をするための決まりの大切さがわかり、守ろうとする</li> <li>チャイムやその他の学校のきまりが分かり、守ろうとする</li> <li>してはいけないことや言わないことを自分で判断しようとする</li> <li>集団生活に必要な言葉の意味が分かり、使える</li> <li>公共物や共同の物を大切にすることが分かる ・学校のを大切に扱うことができる</li> </ul>	
知識及び技能の 習得	思いやり	<ul style="list-style-type: none"> <li>①健康な心と体</li> <li>②自立心</li> <li>③協同性</li> <li>④道徳性・規範意識の芽生え</li> <li>⑤社会生活との関わり</li> <li>⑥思考力の芽生え</li> <li>⑦自然との関わり・生命尊重</li> <li>⑧数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚</li> <li>⑨言葉による伝え合い</li> <li>⑩豊かな感性と表現</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の思いを相手に分かるように話そうとする</li> <li>教師や友だちの話を聞くこととする</li> <li>絵本や興味を持って最後まで見る</li> <li>新しい集団の中では、弱さがあったり緊張したりして、話すことが難しいこともある</li> <li>遊具で喜んで遊ぶ</li> <li>指示を聞いて集まったり並んだりする</li> <li>新しい環境のため人間関係がまだできておらず、一人で遊ぶこともある</li> <li>校内の生き物や植物に興味を持ち、草花を摘んだり虫を見つたりする</li> <li>自分の名前が読めたり書けたりする</li> <li>必要に応じて数を数える</li> <li>ひらがなの書き順が違ったり鏡文字になったりすることもある</li> <li>知っている歌やうたを歌う</li> <li>自分の思いを絵や工作等で表現する</li> <li>自分がかかったイメージが持てなかったりして、自分なりの表現が難しいこともある</li> <li>筆圧が弱かったり、バランスの整った文字を書くのが難しかったりすることもある</li> <li>プリントの両端を合わせてたどることが難しいこともある</li> <li>長時間椅子に座ることに慣れておらず、姿勢の保持が難しいこともある</li> </ul>	生活のルール	<ul style="list-style-type: none"> <li>みんなが心地よい生活をするための決まりの大切さがわかり、守ろうとする</li> <li>チャイムやその他の学校のきまりが分かり、守ろうとする</li> <li>してはいけないことや言わないことを自分で判断しようとする</li> <li>集団生活に必要な言葉の意味が分かり、使える</li> <li>公共物や共同の物を大切にすることが分かる ・学校のを大切に扱うことができる</li> </ul>	思考力・判断力・表現力等
思考力・判断力・表現力等の基礎	言葉	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な物に興味を持ち、好奇心を持って見たり、関わったりする</li> <li>興味関心を持って、目的に向かって試行錯誤を繰り返しながら遊ぶ</li> <li>一人または数人で、何度も試したり工夫したりする</li> <li>生活経験の中から遊びに必要なものを取り入れたり、不思議だと思ったことを調べたりする</li> <li>身近な物に興味関心を持って関わりながら予想や見通しを持つようとする</li> <li>自分のやりかたに自信をもち、苦手を克服し、最後まで諦めずに取り組む</li> <li>苦手なことに対し、最後まで諦めずに取り組む</li> <li>自分の思いや考えを相手に分かるように伝えようとする</li> <li>したこと、見たこと、聞いたこと、感じたことなどを自分なりの表現や言葉で伝えようとする</li> <li>大人や友だちの話に興味・関心を持って聞く</li> <li>友だちや周囲の大人の話に聞こうとする</li> <li>相手の話を自分なりに理解しようとして、相手の思いに気付こうとしたりする</li> <li>遊びや生活の中で文字や絵に興味関心を持つ</li> <li>幼児の興味や能力などに応じた遊びの中で、体を動かす心地よさを味わう</li> <li>友だちと競い合ったり応援し合ったりして遊ぶ</li> <li>身近な自然や動植物に触れ、生命の尊さに気付く</li> <li>四季の変化や自然の動植物に興味関心を持つ</li> <li>身近な自然や動植物に触れ発見したり不思議に感じたりしたことを友だちや周囲の大人と伝え合おうとする</li> <li>自分の住んでいる地域や伝統行事に親しむ</li> <li>日常生活の中で数えたり、はかったりすることの便利さと必要性に気付く、関心を持って関わる</li> <li>遊びの中で、長さや重さをはかたり、比べたりすることを楽しむ</li> <li>ゲームやボール遊びの回数、経路やジャンプなどの回数を数えようとする</li> <li>遊びや生活に必要な物を数字や文字で表そうとする</li> <li>自分の名前を読んだり書いたりしようとする</li> <li>絵本や図鑑に親しみ、絵や写真、言葉から自分の思いや想像を膨らまして楽しんだり、生活の中で用いたりしようとする</li> <li>自分なりの思いやイメージを様々な方法で自由に表現することを楽しむ</li> <li>自分なりの思いや願いを込めて、様々な方法で自由に表現する。(絵に描く、音楽で表現する、つくった物を使って遊ぶなど)</li> <li>目的に合わせて素材や道具などの特徴を生かして、自分なりに表現する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の思いを相手に分かるように話そうとする</li> <li>教師や友だちの話を聞くこととする</li> <li>絵本や興味を持って最後まで見る</li> <li>新しい集団の中では、弱さがあったり緊張したりして、話すことが難しいこともある</li> <li>遊具で喜んで遊ぶ</li> <li>指示を聞いて集まったり並んだりする</li> <li>新しい環境のため人間関係がまだできておらず、一人で遊ぶこともある</li> <li>校内の生き物や植物に興味を持ち、草花を摘んだり虫を見つたりする</li> <li>自分の名前が読めたり書けたりする</li> <li>必要に応じて数を数える</li> <li>ひらがなの書き順が違ったり鏡文字になったりすることもある</li> <li>知っている歌やうたを歌う</li> <li>自分の思いを絵や工作等で表現する</li> <li>自分がかかったイメージが持てなかったりして、自分なりの表現が難しいこともある</li> <li>筆圧が弱かったり、バランスの整った文字を書くのが難しかったりすることもある</li> <li>プリントの両端を合わせてたどることが難しいこともある</li> <li>長時間椅子に座ることに慣れておらず、姿勢の保持が難しいこともある</li> </ul>	言葉	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な物に興味を持ち、好奇心を持って見たり、関わったりする</li> <li>興味・関心を持って、ものや人と関わる</li> <li>興味・関心のあることに対して、自分で工夫したり試したりして遊ぶ</li> <li>興味・関心のあることに対して、人に尋ねたり自分で調べたりする</li> <li>最後まで諦めずに取り組む</li> <li>苦手なことや、初めてのことに取組もうとする</li> <li>自分の思いや考えを相手に分かるように伝えようとする</li> <li>自分の経験したことや、思いや考えを自分なりの言葉で伝えようとする</li> <li>教師や友だちの話しに興味・関心を持って聞く</li> <li>相手の話を理解しようとして、相手の思いに気付こうとしたりする</li> <li>教師や友だちの話を自分の生活や経験と結びつけながら聞こうとする</li> <li>言葉や絵に興味関心を持つ</li> <li>書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりしながら読む</li> <li>興味や能力などに応じた遊びの中で体を動かす心地よさを味わう</li> <li>屋内、屋外で進んで体を動かす</li> <li>友だちと競い合ったり応援し合ったりして遊ぶ</li> <li>友だちと一緒に集まったことやボール遊びをして、グループで競い合ったり、協力したりしながら遊ぶ</li> <li>様々な順番に並ぶ(名前順、背の順、男女別など)</li> <li>身近な自然や動植物に触れ、生命の尊さに気付く</li> <li>身近な事象に興味関心を持ち、聞いた話や調べたり、試したりしようとする</li> <li>生き物や植物に興味・関心を持ち、世話をしたり観察したりしようとする</li> <li>自分の住んでいる地域や伝統行事に親しむ</li> <li>自分の住んでいる地域の行事や文化に親しみ、興味関心を持つ</li> <li>日常生活の中で数えたり、はかったりすることの便利さと必要性に気付く、関心を持ってかわかる</li> <li>生活の中で数えたり、読んだりする経験を通して、身近な数や文字に関心を持つ</li> <li>もの、ものを対応させることによって、ものの個数を比べる ・たしざんやひきざんをする</li> <li>遊びや生活に必要な物を、数字や文字で表そうとする</li> <li>音楽やリズムに合わせて、歌を歌ったり、表現したりすることを楽しむ</li> <li>自分なりの思いやイメージを様々な方法で自由に表現することを楽しむ</li> <li>目的に合わせて素材や道具などの特徴を生かして表現する</li> <li>鉛筆を正しく持つ ・両足を床につけ、背筋を伸ばして座る</li> </ul>	
学びに向かう力・人間性	自然	<ul style="list-style-type: none"> <li>①言葉による伝え合い</li> <li>⑩豊かな感性と表現</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の思いを相手に分かるように話そうとする</li> <li>教師や友だちの話を聞くこととする</li> <li>絵本や興味を持って最後まで見る</li> <li>新しい集団の中では、弱さがあったり緊張したりして、話すことが難しいこともある</li> <li>遊具で喜んで遊ぶ</li> <li>指示を聞いて集まったり並んだりする</li> <li>新しい環境のため人間関係がまだできておらず、一人で遊ぶこともある</li> <li>校内の生き物や植物に興味を持ち、草花を摘んだり虫を見つたりする</li> <li>自分の名前が読めたり書けたりする</li> <li>必要に応じて数を数える</li> <li>ひらがなの書き順が違ったり鏡文字になったりすることもある</li> <li>知っている歌やうたを歌う</li> <li>自分の思いを絵や工作等で表現する</li> <li>自分がかかったイメージが持てなかったりして、自分なりの表現が難しいこともある</li> <li>筆圧が弱かったり、バランスの整った文字を書くのが難しかったりすることもある</li> <li>プリントの両端を合わせてたどることが難しいこともある</li> <li>長時間椅子に座ることに慣れておらず、姿勢の保持が難しいこともある</li> </ul>	自然	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な物に興味を持ち、好奇心を持って見たり、関わったりする</li> <li>興味・関心を持って、ものや人と関わる</li> <li>興味・関心のあることに対して、自分で工夫したり試したりして遊ぶ</li> <li>興味・関心のあることに対して、人に尋ねたり自分で調べたりする</li> <li>最後まで諦めずに取り組む</li> <li>苦手なことや、初めてのことに取組もうとする</li> <li>自分の思いや考えを相手に分かるように伝えようとする</li> <li>自分の経験したことや、思いや考えを自分なりの言葉で伝えようとする</li> <li>教師や友だちの話しに興味・関心を持って聞く</li> <li>相手の話を理解しようとして、相手の思いに気付こうとしたりする</li> <li>教師や友だちの話を自分の生活や経験と結びつけながら聞こうとする</li> <li>言葉や絵に興味関心を持つ</li> <li>書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりしながら読む</li> <li>興味や能力などに応じた遊びの中で体を動かす心地よさを味わう</li> <li>屋内、屋外で進んで体を動かす</li> <li>友だちと競い合ったり応援し合ったりして遊ぶ</li> <li>友だちと一緒に集まったことやボール遊びをして、グループで競い合ったり、協力したりしながら遊ぶ</li> <li>様々な順番に並ぶ(名前順、背の順、男女別など)</li> <li>身近な自然や動植物に触れ、生命の尊さに気付く</li> <li>身近な事象に興味関心を持ち、聞いた話や調べたり、試したりしようとする</li> <li>生き物や植物に興味・関心を持ち、世話をしたり観察したりしようとする</li> <li>自分の住んでいる地域や伝統行事に親しむ</li> <li>自分の住んでいる地域の行事や文化に親しみ、興味関心を持つ</li> <li>日常生活の中で数えたり、はかったりすることの便利さと必要性に気付く、関心を持ってかわかる</li> <li>生活の中で数えたり、読んだりする経験を通して、身近な数や文字に関心を持つ</li> <li>もの、ものを対応させることによって、ものの個数を比べる ・たしざんやひきざんをする</li> <li>遊びや生活に必要な物を、数字や文字で表そうとする</li> <li>音楽やリズムに合わせて、歌を歌ったり、表現したりすることを楽しむ</li> <li>自分なりの思いやイメージを様々な方法で自由に表現することを楽しむ</li> <li>目的に合わせて素材や道具などの特徴を生かして表現する</li> <li>鉛筆を正しく持つ ・両足を床につけ、背筋を伸ばして座る</li> </ul>	
主な活動★	各校園所での活動内容を記入する (例:遊びの内容、園行事等)			各小学校でのスタートカリキュラム内容を記入		
配慮事項 10の姿との 関わり 環境 構成	各校園所での活動内容に関する環境や援助を記入する					
幼保小 連携	各校園所で小学校との連携、幼保の連携内容を記入する					
家庭との 連携	家庭への連携内容を記入する			【園所との連携】	幼保との連携内容を記入する	





## 5 アプローチカリキュラムから小学校へのつながり【指導編】

### (1) 環境

	就学前	小学校
子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>机や椅子は活動に応じて出したりしまったりする。机は一人用机ではなく、共用机を使用している。</li> <li>床での制作活動や遊び、話し合いも多く、友だちとの距離が近い。</li> <li>遊びに必要な道具を、必要に応じて自分達で出したりしまったりする。</li> <li>個人の持ち物は、ロッカーやフックなど、決められた場所に自分で片付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>机は一人用机となる。</li> <li>文字を書くことが増えるため、作業や話し合いは机と椅子を用いて行うことが多い。</li> <li>個人の持ち物は、机の中、ロッカー、フックなど、決められた場所に自分で片付ける。</li> </ul>
配慮工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>机と椅子を用いた活動を取り入れる。</li> <li>正しい姿勢で椅子に座れるよう指導する。</li> <li>ロッカーやフックに、名前シールを貼ったり、道具等に名称を貼ったりして、文字への興味関心を高める。</li> <li>季節感のある掲示物や、小学校への期待感が高まる掲示物を保育室に用意する。</li> <li>一日の流れが分かるような掲示物を取り入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>読み聞かせや話し合いの際は、机の利用にこだわらず、教師と子ども、子ども同士の距離を縮める。</li> <li>個人の活動だけでなく、ペア活動、グループ活動を積極的に取り入れ、子ども同士の関わりを意図的に作り出す。</li> <li>ロッカーやフックに名前シールを貼り、持ち物の整理整頓がしやすいようにしたり、友だちの名前に対する興味・関心を持たせたりする。</li> <li>一日の流れや学習の流れが分かるような掲示物を取り入れる。</li> </ul>

就学前					小学校			
11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
<ul style="list-style-type: none"> <li>月や週の予定、一日の流れなどを見えるようにする</li> <li>ロッカーやフックに、名前シールを貼る</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>机と椅子を用いた活動や、立った姿勢で並んで話を聞く活動を取り入れる</li> </ul>			
					<ul style="list-style-type: none"> <li>活動に応じて、床での活動を取り入れる</li> <li>活動に応じて、ペア・グループ・全体など様々な形態をとる</li> </ul>			



幼稚園・保育所では、共用の机を使っています。  
普段は、椅子のみ、又は床での活動が中心のため、**友だちとの距離も自然と近くなります。**

小学校では、  
読み聞かせや話し合いの際は、**前に集めたり机の配置を工夫したりするなどして、友だちとの距離感を縮め、安心感を持てるように**しましょう。

幼稚園・保育所では、  
**机を用いた話し合いや制作活動も、時には取り入れて**みましょう。

## (2) 生活する力

### ① 食事

	就学前	小学校
子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>一定時間内（30分程度）で食べ終わる。ただし、個人差がある。</li> <li>給食の園所と弁当の園所がある。どちらも、配膳や机上の準備など、できることは自分達で行う。</li> <li>学校給食よりも食材の切り方が細かい場合もある。</li> <li>弁当の場合は、子どもが食べきれぬ量を保護者が調節している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一定時間内（30分程度）で食べ終わる。慣れてくると20分程度で食べ終わるようになる。ただし、個人差がある。</li> <li>時間内に自分の食べられる量を把握し、増やしたり減らしたりする。</li> <li>給食当番は、給食を給食室に取りに行き、教室で配膳を行う。給食後は、給食当番が並んで返却に行く。</li> </ul>
配慮・工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>昼食の終了時刻を意識して食べるよう促す。</li> <li>箸の持ち方、食事のマナーなど、正しい食事のマナーが身につくよう指導する。</li> <li>弁当の場合でも、苦手なものも食べる機会を増やすよう保護者に内容の工夫を働きかける。また、少食の子どもには、いつもより多く食べた時、その頑張りを認める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>給食が初めての子どももいるため、机上の準備、手洗い、給食エプロンの着方など、子どもが戸惑わないよう丁寧に指導する。</li> <li>落ち着いて準備や配膳ができるよう、時間に余裕を持つて行う。</li> <li>給食開始当初は、まだ環境の変化に慣れていないこともあり、普段は食べられる量でも難しい場合がある。様子を見ながら少しずつ食べられるようにする。</li> <li>自分の食べられる量に応じて、増やしたり減らしたりできるよう声かけをする。</li> <li>アレルギーの子どもについては、保護者から様子を聞き取り、安全に配慮する。</li> <li>苦手なものも少しずつ食べられるよう声かけをする。</li> <li>食事を楽しく食べるためのマナーなどを指導する。（声の大きさ、話の内容、赤黄緑の食べ物等）</li> </ul>

就学前					小学校			
11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
<ul style="list-style-type: none"> <li>昼食は時間を意識して、一定の時間内に食べる <span style="float: right;">→</span></li> <li>自分の食べられる量を把握し、増やしたり減らしたりする <span style="float: right;">→</span></li> <li>苦手なものも少しでも食べられるようにする <span style="float: right;">→</span></li> </ul>								



入学当初は、環境の変化もあり、**普段たくさん食べられる子どもも、食が細くなる**ことがあります。

様子を見ながら、少しずつ食べられるよう、声をかけるようにしましょう。

また、苦手な食べ物にもチャレンジできるよう、食に対して意欲が湧くような声かけや雰囲気を感じがけましょう。

②排泄

	就学前	小学校
子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>・排尿、排便後の後始末を自分で行う。パンツやズボンを脱がずに排泄を済ませる。</li> <li>・好きな遊びをしている時は、自分の行きたい時に行くが、全体活動や行事の時は、活動の区切りに教職員の声かけで行く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トイレは休み時間に済ませる。</li> <li>・男子は、男児用小便器で排尿を済ませる。</li> <li>・パンツやズボンを脱がずに排泄を済ませる。</li> </ul>
配慮・工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝、余裕を持って朝食をとり、排便をしてから登園する習慣が身につくよう保護者に働きかける。</li> <li>・家庭や園所に和式トイレがない場合も、意図的に利用する機会を設ける。</li> <li>・小学校のトイレを利用する機会を設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トイレの使い方を全体で指導し、その後、休み時間には様子を見に行くようにする。男児用小便器の使い方を知らなかったり、園所と使い方が異なる場合もあることを教師は認識し、丁寧に指導する。</li> <li>・朝、余裕を持って朝食をとり、排便をしてから登校する習慣が身につくよう保護者に働きかける。</li> <li>・授業中にトイレに行かなくてもいいように、休み時間にはトイレに行くよう促す。</li> <li>・授業中にトイレに行きたくなった時に、行きたいと言えるような雰囲気を作る。</li> </ul>

就学前					小学校			
11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
<ul style="list-style-type: none"> <li>・決まった時間にトイレに行く <span style="float: right;">→</span></li> <li>・パンツやズボンを脱がずに、排泄を済ませる <span style="float: right;">→</span> <ul style="list-style-type: none"> <li>・和式トイレの使い方に慣れる</li> <li>・小学校のトイレを利用する</li> </ul> </li> </ul>								



幼稚園・保育所のトイレと、小学校のトイレでは、便器の大きさや扉の仕様も異なります。

幼稚園・保育所では、**近隣の小学校に行き、トイレを利用する**機会を設け、子ども達が小学校のトイレに戸惑わないようにしましょう。

小学校の先生は、**近隣の園所を訪ねて**、施設や子ども達の様子を見てみましょう。



③整理整頓

	就学前	小学校
子ども の 姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タオル、コップ、歯ブラシなどの個人の持ち物は、所定の場所に置き、必要に応じて使用している。</li> <li>・はさみ、のり、クレヨンなどの個人の持ち物は、ロッカーに収納し、自分で管理している。</li> <li>・気温や活動に応じて着脱した衣類は、ロッカーにしまったりハンガーにかけたりして自分で管理している。</li> <li>・泥んこ遊びや水遊びの際は、衣服やタオルなど自分の物は自分でたたんで管理している。衣服をたたむ際は、床を用いることが多い。</li> <li>・年間を通して裸足で生活している園所もある。また、活動に応じて裸足になることも多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ランドセルや鍵盤ハーモニカ、体操服、算数セットなど個人の持ち物は、ロッカー等に収納し、自分で管理している。</li> <li>・はさみ、のり、色鉛筆などの文房具は、机の引き出しで自分で管理する。</li> <li>・着替えは立ったまま行う。衣服をたたむ際は、机を用いる。</li> <li>・場所に応じて、上靴や体育館シューズなどを使い分ける。裸足になることはほとんどない。</li> </ul>
配慮 ・ 工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の荷物は自分で持つように意識づける。</li> <li>・自分の場所が分かるように、ロッカーやフックに名前シールを貼り、自分の持ち物を自分で管理できるようにする。</li> <li>・立ったまま着替えができるよう、少しずつ指導していく。椅子や机の上で、衣服をたたむ機会を意図的に設ける。</li> <li>・外靴、上靴、トイレスリッパなど、かかとを揃えて並べたり、靴箱にしまったりするよう継続して指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の場所がわかるように、ロッカーやフックに名前シールを貼り、自分の持ち物を自分で管理できるようにする。</li> <li>・はさみ、のり、色鉛筆などの文房具は、道具箱の中のどこに置くか絵や図を用いて視覚的に指導する。</li> <li>・道具箱の中の物を増やさないよう、使用頻度の低いものは担任が預かることもある。</li> <li>・ほうきや雑巾、給食エプロンなど、学級全体で共用するものの場所が分かるように、絵や文字で示す。</li> <li>・着替える時は、落ち着いて衣服をたためるように、時間にゆとりをもたせる。慣れてきたら、少しずつ時間を短くしていく。</li> <li>・外靴、上靴、トイレスリッパなど、かかとを揃えて並べたり、靴箱にしまったりするよう指導する。</li> </ul>

就学前					小学校			
11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
・ロッカーやフックを使って自分の持ち物を管理する					→			
・脱いだ衣服をたたみ、決められた場所にしまう					→			
・かかとを揃えて靴やスリッパを並べたり、靴箱にしまったりする					→			



小学校では、  
体操服や体育館シューズ、絵の具セット、算数セット  
など、**自分で管理する持ち物の量が急に増えます**。使用  
頻度の低いものは担任が預かるようにしましょう。

幼稚園・保育所では、  
衣服をたたむ際は、床だけでなく**机や椅子の上**でもた  
ためるように、少しずつ声をかけてみましょう。

発達段階に応じて、自分のものは自分で管理するよう  
に指導しましょう。





④見通し

	就学前	小学校
子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>登降園時刻は、保護者の勤務時間や園バスの時間によって様々である。</li> <li>一日の生活の流れを把握し、自分のことは自分で行う。</li> <li>チャイムはなく、保育者の声かけによって、次の活動へ流動的に移っていく。</li> <li>自分達で時計を見ながら行動することもある。</li> <li>自分達の遊びを、きりのよいところまでできる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>時間割に基づき、登下校時刻が決められている。</li> <li>子ども達だけで登下校する。</li> <li>授業時間（1単位45分）や休み時間が決められている。</li> <li>手洗いやトイレは、基本的に休み時間（約5分）の間に行く。</li> <li>業間休み、昼休みは、比較的長い休憩時間がある（15分～25分）。</li> <li>遊びや学習が途中でも、時間が来たらやめる。</li> </ul>
配慮・工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝の会やホワイトボードなどで、一日の生活の流れを確認し、見通しを持つて生活できるようにする。</li> <li>子ども自身が活動に見通しや区切りがつけられるよう、保育者が意図的に声をかけたり、音楽や模型の時計で時間を知らせたりする。</li> <li>トイレや手洗いは5分程度で済ませられるよう指導する。</li> <li>保育所では、徐々に午睡を減らしていく。</li> <li>活動の始まりと終わりを意識させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝の会や黒板などで、一日の生活の流れを確認し、見通しを持つて生活できるようにする。</li> <li>子ども自身が時間を意識できるよう、模型の時計などの視覚支援を用いたり、音楽で時間を知らせたりする。</li> <li>入学当初は、1単位45分にこだわらず、子どもの実態に応じて15分、20分、30分単位の授業展開を工夫する。</li> <li>幼児期の生活を踏まえ、1時間の中に体験を通した学習活動や、床での活動を意図的に取り入れた授業展開を工夫する。</li> <li>遊びや学習にかかる時間を見通し、子ども達が活動に十分満足する時間を確保する。</li> </ul>

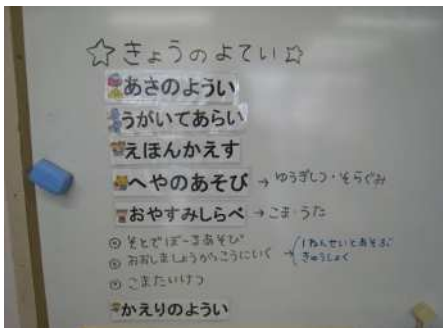
就学前					小学校			
11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
<ul style="list-style-type: none"> <li>午睡なしの生活リズムに慣れる →</li> <li>活動の見通しを持ち、片づけの時間などを意識して活動する →</li> <li>全体時間を45分に設定する</li> <li>トイレや手洗いを5分で済ませる</li> <li>活動の始まりと終わりに全員で挨拶をする（内容によって）</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>時間割やチャイムに合わせて行動する</li> <li>授業時間と休み時間の切り替えを行い、チャイムや時計を意識して行動する</li> </ul>			



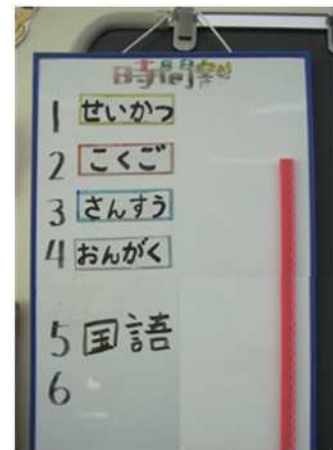
幼稚園・保育所では、  
**チャイムはなく、流動的に次の活動へ移ります。**

小学校では、  
**模型の時計や小黒板などを用いて予定を示し、子ども自身が時間を意識できるようにしましょう。**  
入学当初は、1単位45分にこだわらず、子どもの実態に応じて**15分、20分単位の授業展開を工夫**しましょう。

幼稚園・保育所では、  
5歳の終わり頃には、**全体活動等を45分で設定したり、始まりと終わりの挨拶をしたり**していきましょう。



	月	火	水	木	金	土	日
1	朝のこぼれ	朝のこぼれ	朝のこぼれ	朝のこぼれ	朝のこぼれ	朝のこぼれ	朝のこぼれ
2	こぼれ	こぼれ	こぼれ	こぼれ	こぼれ	こぼれ	こぼれ
3	えほん	えほん	えほん	えほん	えほん	えほん	えほん
4	せいかつ	せいかつ	せいかつ	せいかつ	せいかつ	せいかつ	せいかつ
5	こぼれ	こぼれ	こぼれ	こぼれ	こぼれ	こぼれ	こぼれ
6	おんがく	おんがく	おんがく	おんがく	おんがく	おんがく	おんがく



### (3) 人とかかわる力

#### ①協同

	就学前	小学校
子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の思いを伝えたり、相手の思いを受け止めたりしながら、一緒に遊びを考えたり、一つのを制作したりする。</li> <li>遊びをよりおもしろくするために、友だちと役割分担して、遊びを進める。</li> <li>行事や活動の際は、年長としての自覚を持って、当日までの準備を進めたり、当日の進行を務めたりする。</li> <li>園生活や遊びを通して、年長としての自覚を持って異年齢とかかわる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新しい環境の中で、友だちとのかかわりを再構築するため、幼児期の終わりまでに培った人とかかわる力は、一時期ではあるが発揮しにくくなる。しかし、人とかかわる力は消えたわけではなく、新しい環境に慣れると、その力がまた発揮されるようになる。</li> <li>学級内の当番活動や班活動、掃除などを、友だちと一緒に進める。</li> <li>登下校や児童会活動、生活科の学習など、新入生として、異年齢とのかかわりを持つ。</li> </ul>
配慮工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>しっぽとり、帽子とり、鬼ごっこなど自分たちでルールを考えていくことのできる遊びを保育に取り入れる。</li> <li>グループでの制作や劇遊び、音楽活動など、同じ目的に向かって友だちと活動に取り組み、やり遂げる経験を意図的に仕組む。</li> <li>遊びの中で、それぞれの思いを出し合い、折り合いをつけながら遊べるよう、環境を整えたり、声をかけたりする。</li> <li>遊びの中で、相手の気持ちを受け止め自分の気持ちをコントロールしようとしたり、状況を判断したりできるように援助する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新しい環境の中で、自分の思いや考えを安心して出せる場を作る。</li> <li>担任は、子ども達が環境が変わり、新しい人間関係を再構築しなければならない状態であることを理解しておく。</li> <li>学級活動や学習場面等で、周囲の友だちに意識が向くよう、ペアやグループ、全体など場に応じた活動を意図的に取り入れる。</li> <li>休み時間や授業中、友だちとかかわりながら自分の気持ちをコントロールしたり、相手の気持ちを受け止めようとしたりできるように援助する。</li> </ul>

就学前					小学校			
11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
<ul style="list-style-type: none"> <li>鬼ごっこやドッジボールなどルールのある遊びをする</li> </ul>					→			
<ul style="list-style-type: none"> <li>友だちと同じ目的に向かって、制作活動や音楽活動に取り組む</li> </ul>					→			
					<ul style="list-style-type: none"> <li>ペアやグループ活動などを通して、学級の友だちを知る</li> <li>新しい環境の中で、新しい友だちと遊ぶ</li> <li>友だちと一緒に学習や遊びを進める</li> </ul>			



幼稚園・保育所では、  
しっぽとり、帽子とり、鬼ごっこなどを通して、**自分  
たちでルールを作り上げていく楽しさ**を経験してい  
ます。また、制作や劇遊び、音楽活動などを通して、  
**同じ目的に向かって友だちと活動に取り組み、やり  
遂げる経験**も積み重ねています。

小学校では、  
**ペアやグループ活動を積極的に取り入れ、子ども同  
士のかかわり**を意図的に作り出してみましよう。

②生活のルール

	就学前	小学校
子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>園所でのきまりや、自分達で決めたルールを守る</li> <li>年長として、年下の子ども達の見本となる行動をとる。</li> <li>相手の立場に立って考えて行動したり、自分の思いと友だちとの思いに折り合いをつけたりする。</li> <li>クラスで起こった困ったことを、自分達の問題として解決策を考えようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な園所から入学してくるため、様々なきまりが存在する。</li> <li>新入生として、上級生から学校生活について色々教えてもらう。</li> <li>小学校での新しいきまりを知り、少しずつ慣れていく。</li> <li>様々な園所で経験してきたことをすり合わせ、折り合いをつけながら新しいきまりを作り出していく。</li> </ul>
配慮・工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>きまりや約束を守ることによって、みんなが気持ちのよい生活ができることに気付けるよう、遊びや話し合いを援助する。</li> <li>遊びや生活の中でトラブルが起きたときは、状況を見ながら子ども同士で考え、自分たちで解決できるように援助する。</li> <li>日々の保育の中で、自分を大切にすること、他人への思いやりや感謝、生命の尊重などについて話す機会を意図的に設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な園所から入学してきた子ども達の生活経験は多様であり、一つの事柄を取り上げて様々なきまりが出てくることを担任は理解しておく。</li> <li>きまりや約束を守ることによって、みんなが気持ちのよい生活ができることに気付けるよう、機会を設けて話すようにする。</li> <li>遊びや生活の中でトラブルが起きたときは、状況を見ながら子ども同士で考え、自分たちで解決できるように援助する。</li> </ul>

就学前					小学校			
11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の思いを相手に伝えたり、相手の思いを受け止めたりする</li> </ul>					→			
<ul style="list-style-type: none"> <li>トラブルが起きた時はグループやクラスで話し合ったり、解決方法を考えたりする</li> </ul>					→			
<ul style="list-style-type: none"> <li>最上級生として、下級生の見本となる行動を心がける</li> </ul>					→			
					<ul style="list-style-type: none"> <li>出身園所のきまりを出し合い、自分達の学級の新たなきまりを話し合う</li> <li>登校、給食、掃除、学校探検など、上級生と一緒に経験を重ねながら小学校のきまりを知る</li> </ul>			



幼稚園・保育所では、  
遊びや生活の中でトラブルが起きたときは、状況  
を見ながら**子ども同士で考え、自分達で解決**させ  
るようにしています。

小学校では、  
出身園所のきまりを出し合い、自分達の学級の新  
たなきまりを話し合う機会を設けてみましょう。

トラブルが起きたときは、状況を見ながら、**少しづつ**  
**子ども同士で考え、自分達で解決**させていくよ  
うにしましょう。

(4) 学ぶ力

①心情・意欲・態度

	就学前	小学校
子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近なものに興味を持ち、好奇心を持って見たり関わったりする。</li> <li>一人または数人で、目的に向かって試行錯誤を繰り返しながら遊ぶ。</li> <li>新たな気付きを、友だちや周囲の大人に伝え、さらに遊びを展開させようと工夫する。</li> <li>苦手なことに対し、最後まで諦めずに続けようとする。</li> <li>新しいことにも自分から進んで取り組んだり、友だちの遊んでいる様子を見ながら自分もやってみようとしたりする。</li> <li>自分の興味・関心のある遊びを、自分の納得のいくまで試行錯誤を繰り返しながら遊ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校での生活に期待を持ち、授業を受けることを楽しみにしている。</li> <li>新しい環境のため、幼児期の終わりまでに培った非認知能力（心情・意欲、粘り強さ、思考錯誤する力等）は、一時期ではあるが発揮しにくいこともある。新しい環境に慣れると、またその力が徐々に発揮されるようになる。</li> <li>学習内容や学習形態の変化により、長時間の学習になると集中できない子どももいる。</li> <li>時間割に基づいて計画された学習内容や課題に取り組むため、自分のやりたいことを時間の許す限りできる場面が少なくなる。切り替えの難しい子どもや学習内容に興味・関心を持ってない子どもは、授業に参加しにくいこともある。</li> </ul>
配慮・工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>直接体験を通して、発見したり不思議に感じたりしたことを、友だちと伝え合おうとする姿や、教師に説明しようとする姿を認める。</li> <li>遊びの中で、何度も繰り返して取り組んだり、失敗しても何度も続けようとしたりする姿を見守る。</li> <li>遊びの中でうまくいかないことがあっても、感情をコントロールして、遊びに向かい始める姿を認める。</li> <li>友だちと一緒に遊ぶ中で、様々な感情や葛藤を体験し、乗り越えることで、次への意欲が育つようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>就学前は体験を通じた学びが中心であることを踏まえ、授業の中に具体的な活動を意図的に取り入れる。</li> <li>授業の導入場面では、幼児期の生活や遊びの経験を引き出し、学習場面に結び付けるような工夫を行う。</li> <li>活動を通して、発見したり不思議に感じたりしたことを、友だちと伝え合おうとする姿や、教師に説明しようとする姿を認める。</li> <li>学習の中で、何度も繰り返して取り組んだり、失敗しても何度も続けようとする姿を認める。</li> <li>45分の授業時間にまだ慣れていないことを踏まえ、15分や20分の区切りで活動を計画する。</li> </ul>

就学前					小学校			
11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
<ul style="list-style-type: none"> <li>発見したり不思議に感じたりしたことを、友だちと伝え合おうとする</li> </ul>					→			
<ul style="list-style-type: none"> <li>苦手なことに対し、最後まで諦めずに続けようとする</li> </ul>					→			
<ul style="list-style-type: none"> <li>新しいことに対して、自分から進んで取り組もうとする</li> </ul>					→			



幼稚園・保育所では、遊びを通して、発見したり不思議に感じたりするような**心がゆれ動く経験**を数多く積んでいます。また、興味関心のある遊びを、自分の納得のいくまで試行錯誤を繰り返しながら続けています。

小学校では、**幼児期の生活や遊びの経験を引き出せるような、授業の導入場面の工夫**等を行いましょう。

幼稚園・保育所では、入学後、子ども達は時間割に基づいて計画された学習内容や課題に取り組むことを踏まえ、徐々に**時間でも気持ちを切り替えられる**よう支援していきましよう。



②言葉

	就学前	小学校
子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>・したこと、見たこと、聞いたこと、感じたこと、考えたことなどを、自分なりの言葉で相手に分かるように伝えようとする。</li> <li>・友だちや先生の話すことを分かってほしい、相手の思いに気付こうとしたりする。</li> <li>・相手の話す内容を、自分の生活経験と結び付けて聞こうとする。</li> <li>・絵本の読み聞かせを楽しむ。</li> <li>・絵本や物語、図鑑などを自分で見たり読んだりする。</li> <li>・季節や天気、音や様子、気持ちを表す言葉を知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の思いや考えを教師や友だちに話そうとする。</li> <li>・友だちや教師の話すことを聞こうとする。</li> <li>・読書や読み聞かせを楽しむ。</li> <li>・ひらがなやカタカナ、数字の学習に意欲的に取り組む。</li> </ul>
配慮工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども達の心がゆれ動き、感動や気付きを表情や言葉で表現したくなるような場面を環境と援助で作り出す。</li> <li>・友だちに思いを伝えたり友だちの話を聞いたりしたいという欲求が高まっている時を見逃さず、話し合いの場を設ける。</li> <li>・絵本の読み聞かせを行う。</li> <li>・保育室に季節や自然に関する図鑑や絵本を置いて、子ども達が自由に手に取れるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい人間関係にまだ慣れていないことを教師は理解し、子ども達が安心して話し出せるよう、楽しい雰囲気を作り出したり、少人数で話す場を設けたりする。</li> <li>・絵本の読み聞かせを行う。</li> <li>・教室に季節や自然に関する図鑑や絵本を置いて、子ども達が自由に手に取れるようにする。</li> <li>・国語科で習得した言葉や表現方法は、生活科や算数の学習場面で意図的に活用するようにする。</li> <li>・算数科で習得した数の概念や大小の感覚は、生活科の学習場面（あさがおの観察、学校探検等）で意図的に活用するようにする。</li> </ul>

就学前					小学校			
11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
・自分の思いや考えを、自分なりの言葉で相手に伝える					→			
・友だちや先生の話す内容や、相手の思いに気付こうとしたりする					→			
・教師や大人の読み聞かせを楽しむ					→			
・絵本や物語、図鑑などを自分から進んで読もうとする					→			
					<ul style="list-style-type: none"> <li>・名前を呼ばれたら返事をする</li> <li>・友だちの名前を読み、顔と名前が一致する</li> </ul>			



幼稚園・保育所では、  
心がゆれ動き、**感動や気付きを思わず言葉で表現し  
たくなるような経験**をたくさん積んでいます。  
また、**絵本の読み聞かせ**も毎日行っています。

小学校では、  
子ども達は、まだ新しい人間関係に慣れていないこ  
とを理解し、**子ども達が安心して話し出せるよう、  
楽しい雰囲気を作り出したり、少人数で話す場**を設  
けたりしましょう。  
**絵本の読み聞かせ**も、ぜひ行ってみましょう。

③自然

	就学前	小学校
子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>四季の変化や自然の動植物に、興味関心を持つ。</li> <li>身近な自然や動植物に触れ、発見したり不思議に感じたりしたことを、友だちや周囲の大人と伝え合おうとする。</li> <li>お正月遊びや伝承遊び（竹馬、こま、かるた、凧揚げ等）を楽しむ。</li> <li>サツマイモやダイコンなどの野菜や、ヒヤシンス、チューリップなどの草花の世話を自分たちでする。</li> <li>カブトムシやクワガタの幼虫、カメ、ザリガニなどの生き物の世話を自分たちでする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>四季の変化や自然の動植物に、興味関心を持つ。</li> <li>校内や近くの公園などの身近な自然に触れ、発見したり不思議に感じたりしたことを、友だちに伝えようとしたり、発見カードにまとめようとしたりする。</li> <li>アサガオの世話を自分でする。</li> </ul>
配慮・工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育室に季節や自然に関する図鑑や絵本を置いて、子ども達が自由に手に取れるようにする。</li> <li>四季の変化や身近な自然に触れ、発見したり不思議に感じたりしたことを、友だちと伝え合おうとする姿や、教師に説明しようとする姿を認める。</li> <li>保護者や地域の人と一緒に伝承遊びをする機会を設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教室に季節や自然に関する図鑑や絵本を置いて、子ども達が自由に手に取れるようにする。</li> <li>校庭や公園で見つけた昆虫を飼育観察できるよう、飼育ケースをいつでも出せるようにしておく。</li> <li>発見カードやアサガオの観察をまとめる際は、国語科や算数科で習得した言葉や表現方法を活用できるよう、既習の学習内容を掲示したり想起できるような声かけをする。</li> <li>子ども達の発見や疑問を共有する時間を意図的に設け、子ども同士の気付きや学びを共有するとともに、次の学習課題へと発展させる。</li> </ul>

就学前					小学校			
11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
<ul style="list-style-type: none"> <li>園庭や公園などの草花や生き物に興味関心を持つ</li> <li>身近な自然の中で、発見したり不思議に感じたりしたことを言葉で伝える</li> <li>竹馬、こま、かるた、凧揚げ等をして遊ぶ</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>アサガオを育てる</li> <li>発見や疑問を文字でまとめる</li> </ul>			



幼稚園・保育所では  
四季の変化や身近な自然に触れ、発見したり不思議に感じたりしたことを、友だちや教師に伝える経験を数多く積んでいます。

小学校では、  
幼児期に、子ども達がこのような経験を積んでいることを踏まえ、**幼児期の遊びの経験を引き出し、遊びを通して得た学びを想起できるような授業の導入場面の工夫**等を行いましょう。

## 6 幼児期の保育と児童期の授業の接続の視点

### (1) お店ごっこ (5歳児)

#### ねらい

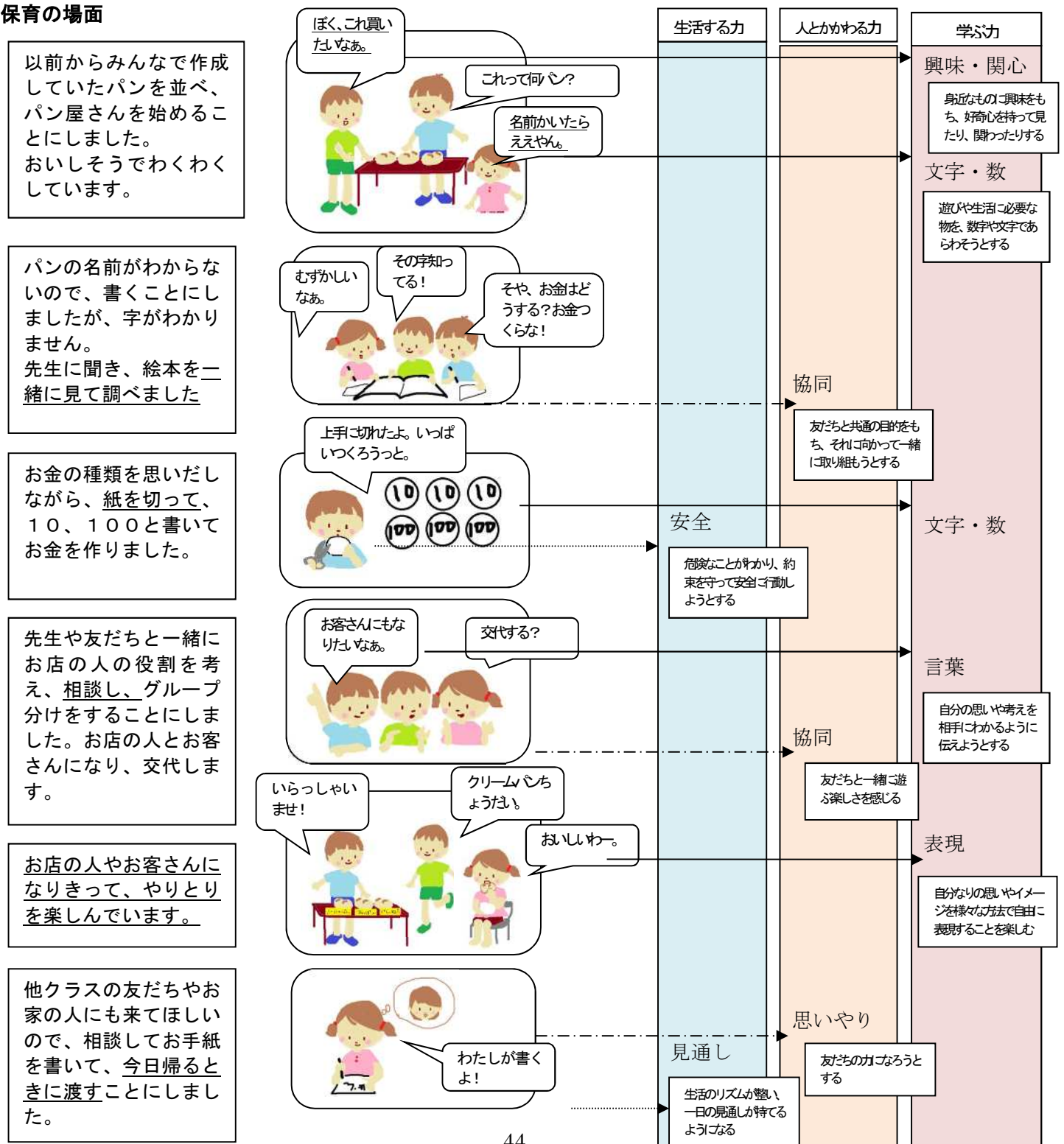


- ・経験したことを友だちと話し合ったり、イメージを共有し工夫して作ったりしながら遊びをすすめていく楽しさを知る。
- ・身近なものを利用し、工夫してごっこ遊びに必要な作品を作る。
- ・お店屋さんやお客さんになりきって言葉のやりとりを楽しむ。








#### 環境構成と援助

- ・自分の思いや考えを相手に伝えることができるように仲立ちをする。
- ・子どもたちのイメージがふくらむように色々な素材を用意する。

#### 保育の場面



## 授業の場面

<p>【教科・単元名】第1学年 生活科「あそびのひろば」の場面から</p>
<p>【目標】落ち葉や木の実を使って遊べるおもちゃやゲームを作り、みんなで楽しく遊ぶことができる。</p>
<p>【評価の観点】</p> <p>○関心・意欲・態度…落ち葉や木の実の色や形に興味を持ち、おもちゃゲームを作ろうとしている。</p> <p>○思考・表現…計画を立て、落ち葉や木の実の特徴を生かしながら、おもちゃを作ることができる。</p> <p>○気付き…落ち葉や木の実には様々な形があることや、それらをおもちゃ作りに利用できることに気付いている。</p>
<p>【学習の主な流れと関連する力】</p> <p style="text-align: center;">&lt;人とかかわる力&gt;共感、協同、思いやり      &lt;学ぶ力&gt;関心・意欲・態度、言葉、自然、表現</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>落ち葉や木の実を使って工夫しながら遊んだりする。</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>お家の人や隣のクラスに手紙や招待状を送る。</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>いろいろな人とかわりながら楽しく遊ぶ。</p> </div> </div>
<p>【教科・単元名】第1学年 算数科「おおきかず」の場面から</p>
<p>【目標】2位数について、個数の数え方や数の読み方、書き方、数の構成などを理解し、活用する。</p>
<p>【評価の観点】</p> <p>○関心・意欲・態度…10ずつまとめて数えることのよさに気づき、個数を数えたり表したりしようとする。</p> <p>○思考…簡単な2位数のたしざんやひきざんができる。</p> <p>○技能…2位数や簡単な3位数について、個数を数えたり、数を読んだり書いたりすることができる。</p> <p>○知識・理解…2位数や簡単な3位数について、数の読み方や書き方、構成や大小などを理解する。</p>
<p>【学習の主な流れと関連する力】</p> <p style="text-align: center;">&lt;人とかかわる力&gt;共感、協同      &lt;学ぶ力&gt;関心・意欲・態度、言葉、文字・数・形、表現</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>10や100のまとまりやばらをつくる。</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>10や100のたしざんやひきざんをする。</p> </div> </div>
<p>【教科・単元名】第1学年 国語科「てがみでしらせよう」の場面から</p>
<p>【目標】・経験したことから書く題材を決め。文と文の続き方に注意して書くことができる。</p> <p>・句読点の打ち方や主語と述語の関係に注意し、敬体を使って書くことができる。</p>
<p>【評価の観点】</p> <p>○関心・意欲・態度…手紙の書き方を理解し、進んで書こうとする。</p> <p>○書くこと…手紙を送りたい相手に、自分の知らせたいことが伝わる手紙を書くことができる。</p> <p>○言語事項…句読点の打ち方や、主語と述語の関係に注意して、丁寧な言葉で書くことができる。</p>
<p>【学習の主な流れと関連する力】</p> <p style="text-align: center;">&lt;人とかかわる力&gt;共感、協同、思いやり      &lt;学ぶ力&gt;関心・意欲・態度、言葉、文字・数・形、表現</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>手紙を送る相手に喜んでもらうための表現方法を学ぶ。</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>書いた手紙をもとに、友だちと交流する。</p> </div> </div>

## (2) 泥んこ遊び (5歳児)

### ねらい

- ・ぬれたり泥がついたりすることにこだわらないで、水や泥の感触を楽しむ。
- ・自分のめあてを持って、土手づくりや水流しを楽しむ。
- ・工夫したり友だちに伝えたりして「やったね」を共有して、水がよく流れる方法や、協力のおもしろさと大切さに気付く。



### 環境構成と援助など

- ・物の重さで流れ方の違いに気付くように落ち葉、容器のふた、木片などを近くに置いておく。
- ・考えた場面や、側の幼児の刺激にする場面に近寄り、「へえ〜」「どうやってしたの」とつぶやく。
- ・適切な環境構成や援助ができるよう幼児全員の体験の度合いや、めあての持ち方を把握しておく。

## 保育の場面「ずーと遠くまで流そう」

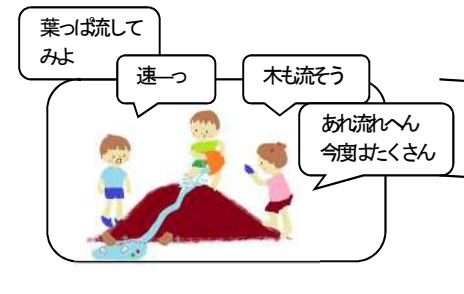
川づくりがしたくて、昨日の続きを始めました。  
土手をつくるのに 30分以上時間をかけています。



A児に頼まれたB児がバケツを見つけて走ります。  
何度も運ぶB児の声でA児が交替してくれました。



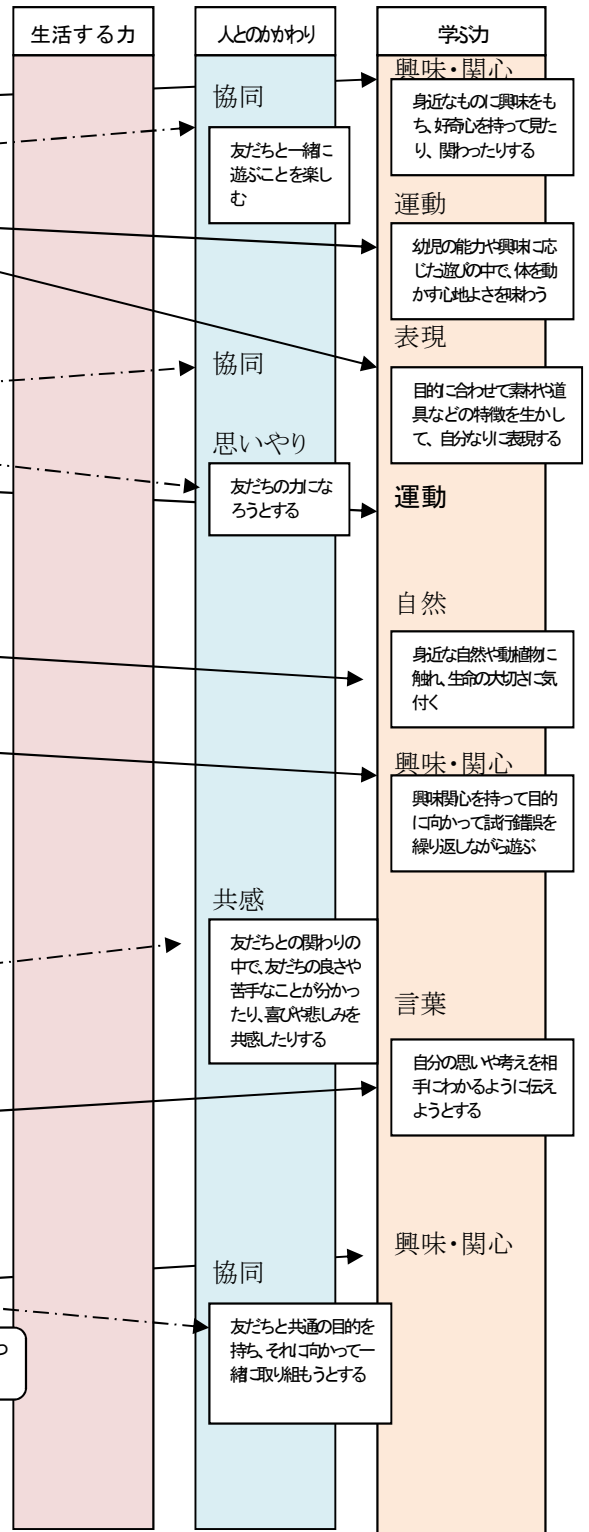
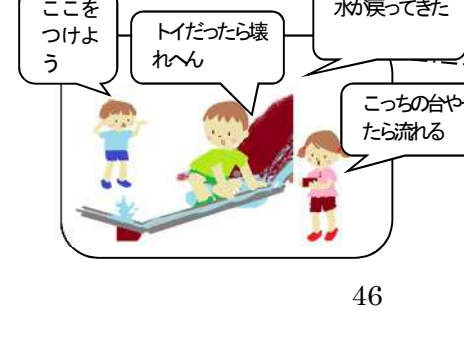
木片はさっきよりたくさんの水を流すと動きました。  
流すものの重さと流れ方の関係に気がしました。



せっきくの土手が壊れて水の量や勢いと破壊力の関係に気がしました。  
反対に怒られたけれど、理由を言うと聞いてくれると気がしました。



トイの隙間がないよう友だちと相談して組むと遠くまで流れました。  
途中で水が戻ると、トイを傾けたり台を変えたりすると、水が流れ始めたのを見て、傾斜に気がしました。





授業の場面

**【教科・単元名】第1学年 生活科「なつのおそび」「みずやつちであそぼう」の場面から**


【目標】土や水などを利用して、遊びを工夫することができる。

【評価の観点】


- 関心・意欲・態度…夏の自然や、土や水などを遊びに取り込もうとしている。
- 思考・表現…夏の自然や、土や水の特徴を考えながら、遊びに利用することができる。
- 気付き…土や砂や水は様々な遊びに活用できることに気付いている。

【学習の主な流れと関連する力】


＜人とかかわる力＞共感、協同      ＜学ぶ力＞関心・意欲・態度、言葉、自然、表現



夏の公園や校庭、砂場で思いっきり遊ぶ。



土や水でどんな遊びができるか、その遊びにはどんなものがよいか話し合う。



土や水を使って楽しく遊ぶ。

**【教科・単元名】第1学年 図画工作「すなやつちとなかよし」の場面から**

【目標】砂や土の感触を十分に味わいながら、造形的な活動を通して自分の思いを表現している。


- ・手や体全体の感覚を存分に働かせて材料にかかわり、自ら活動しようとする。

【評価の観点】


- 関心・意欲・態度…砂や土の感触を味わい、体全体で造形的な活動に取り組もうとしている。
- 発想や構想…自分の感覚や気持ちを基に、造形的な活動を思い付いている。
- 創造的な技能…思い付いたことを試しながら、手や材料・用具を用いて作り方を工夫している。
- 鑑賞…自分が感じたことを友だちに話したり、友だちの話を聞いたりして、活動の楽しさを感じている。

【学習の主な流れと関連する力】

＜人とかかわる力＞共感、協同      ＜学ぶ力＞関心・意欲・態度、言葉、自然、表現



砂や土を用いた活動に興味を持ち、自分の手足や道具を用いて、遊んだり表現したりする。




砂や土で表現したものについて友だちと交流する。


学年が進んでも関連しています

**【教科・単元名】第5学年 理科「流れる水のはたらき」「地面を流れる水」の場面から**

【目標】川や地面を流れる水の様子を観察して、流れる水には地面を削ったり、石や土を運んだり積もらせたりするはたらきがあることがわかる。




川の曲がったところや、普段のときと大雨のとき、大雨の後の川の様子を写真で比べる。




流れる水の量が増えると、地面の様子はどうなるか実験する。

**【教科・単元名】第5学年 社会科「さまざまな土地の暮らし」「低地に住む岐阜県海津市の人々の暮らし」の場面から**

【目標】岐阜県海津市の輪中地帯について、写真や地図などの資料を関連づけて読み取ることができる。



航空写真を見て、海津市の輪中地帯について気付いたことを話し合う。



輪中について調べる。



## 第5章 スタートカリキュラム

### 1 スタートカリキュラム作成のねらい

#### (1) 安心感のある学校生活

入学に際して、子ども達は、期待と同時に不安を抱えています。入学当初は、幼児期に親しんだ活動を取り入れたり、分かりやすく学びやすい環境を整えたりすることで、子ども達は安心して小学校生活をスタートすることができます。また、先生や友だちとかかわる活動を通して、出会いの喜びや学校の楽しさを感じることができます。こうした安心や楽しさは、新しい環境の中での生活の支えとなり、いわゆる小1プロブレムなどの予防や解決にもつながります。

#### (2) 幼児期の経験と児童期の学習の接続

子ども達は、幼稚園・保育所等で、遊びを通して試したり工夫したり、友だちと協力したり、自分の思いを伝えたり、友だちの思いを受け止めたりと、たくさんのことを経験しています。スタートカリキュラムにおいて、そうした幼児期からの学びと育ちをいかす活動や、環境を意図的に構成することによって、子ども達は自信や意欲を持って活動し、自己発揮できるようになります。こうした学習に向かう姿を、先生や友だちに認められることで、自己肯定感が生まれます。

#### (3) 小学校生活6年間の見通し

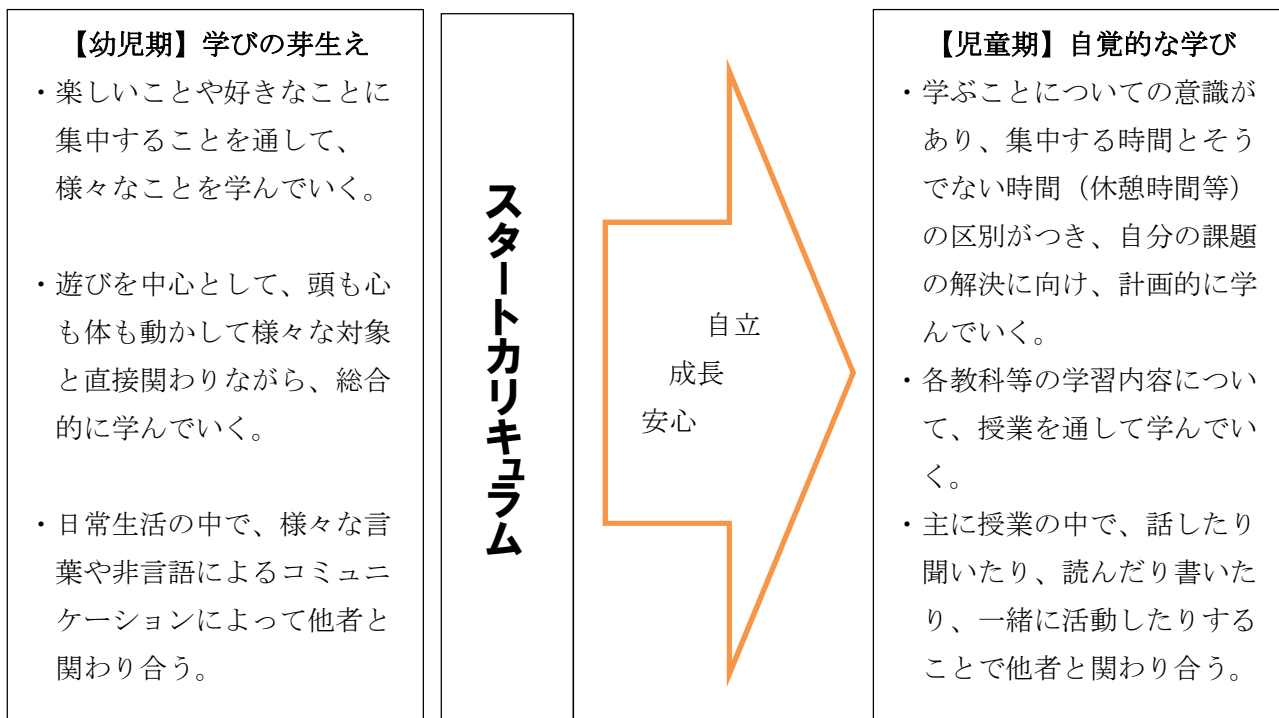
子ども達は、幼児期に児童期の学習につながる学びを遊びを通して経験しています。この経験を基礎としながら、生活科を中心としたスタートカリキュラムを学校全体で検討し編成することで、子ども主体の学習活動を展開することができます。こうしたスタートカリキュラムを実施することで、子ども達は、自分で考え、判断し、行動することを繰り返し、6年間の小学校生活の中で、自立に向けて歩んでいきます。

#### (4) ゼロからのスタートではない

子ども達は、発達段階に応じて、様々な対象と直接的・間接的に関わりながら学んでいます。幼児期の教育は、5領域（健康、人間関係、環境、言葉、表現）を遊びや生活を通して総合的に学んでいく教育課程に基づいて実施されています。一方、児童期の教育は、各教科等の学習内容を系統的に配列した教育課程に基づいて実施されています。このことが、幼児期と児童期の教育の大きな違いと言えます。そこで、子ども達が、新しい学校生活に円滑に移行していくためのスタートカリキュラムが必要となるのです。

スタートカリキュラムとは、小学校へ入学した子ども達が、幼稚園、保育所、認定こ

も園において、遊びや生活を通して培った学びと育ちを基礎として、主体的に自己を発揮し、新しい学校生活を創り出していくためのカリキュラムです。つまり、入学当初の子ども達は、ゼロからのスタートではないということです。入学当初は、学びの芽生えから自覚的な学びへと連続させることが大切です。生活科を核として、楽しいことや好きなことに没頭する中で生じた驚きや発見を大切に、学ぶ意欲が高まるように活動を構成することが有効です。



## 2 スタートカリキュラム

### (1) 朝の取組例

幼稚園や保育所では、登園後、身の回りのことを自分で済ませると、すぐに園庭や保育室で好きな遊びを始めます。1年生の担任は、子ども達が3月までそのような生活リズムで過ごしていたことを知っておくとよいでしょう。

例えば、各学級で「朝の会」や「健康観察」を行った後、校庭や体育館、視聴覚室などに移動し、学級や学年で好きな遊びや手遊び、簡単なゲームなどを行うことも一つの方法です。子ども達の急激な生活リズムの変化を軽減できるとともに、集合する、並ぶ、待つなどの集団行動の約束事も学年で共通して指導できる機会にもなります。

### 【4月 朝の活動内容例】

- ・子どもの様子を見ながら、朝の15分～30分を柔軟に活用する。

第1,2週	【クラスの友だちと一緒に遊ぼう】 ・教室…幼児期に親しんでいた手遊び、わらべうた ・校庭…遊具遊び、自然観察 ・体育館…体ほぐしの運動、簡単な表現活動 など
第3週	【学年の友だちと一緒に遊ぼう】 ・校庭…遊具遊び、竹馬・一輪車、自然観察 ・体育館…体ほぐしの運動、簡単な表現活動 など
第4週	【2年生、6年生と一緒に遊ぼう】 ・教室…わらべうた・校歌を歌う、ゲーム活動 ・校庭…遊具遊び、竹馬・一輪車、自然観察、鬼ごっこ ・体育館…体ほぐしの運動、簡単な表現活動 など

## (2) 週ごとの取組例

### 4月 第1週

#### 【今週のねらい】

小学校生活に必要なルールを知り、楽しく過ごすことができる。

#### 第1日目（入学式）

##### ○学級指導

- ・自分の教室、座席、靴箱、ロッカーの場所を知る。
- ・担任の名前を知る。
- ・トイレの場所を知り、担任と一緒に行く。

#### 第2日目、3日目

##### ○学級指導

- ・朝の用意の仕方（ランドセルの入れ方、提出物の出し方、机の中への入れ方）
- ・挨拶と返事の仕方
- ・健康観察の答え方
- ・トイレ、手洗い場の使い方
- ・プリントの受け取り方、しまい方
- ・帰りの用意の仕方
- ・下校グループの説明
- ・絵本の読み聞かせ

#### 【指導上の留意点】

- ・朝、教室で子ども達を出迎え、一人一人に声をかけながら、安心できる雰囲気を作る。
- ・クラスに同じ出身園所の友だちがいない子どもを把握し、様子を見る。
- ・分からないこと、困ったことがあれば、先生に伝えるように話をする。
- ・配布物は、児童がたたみきれぬ枚数にする。枚数が多い場合は、担任が事前にたたんで準備しておく。
- ・安心してトイレに行けるよう、こまめに声をかけたり、トイレ前で見守ったりする。
- ・集まって話し合ったり、読み聞かせをしたりできるよう、教室の前などに、子ども達が集まるスペースを確保しておく。
- ・トイレ、ロッカーや靴箱、机の引き出しなどの使い方は、視覚化して分かりやすくする。

## 4月 第2週

### 【今週のねらい】

学校で友だちと過ごすことや、みんなと一緒に活動することに安心感を持ち、みんな  
で楽しく遊んだり、学習に取り組んだりすることができる。

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
朝の時間	<b>【クラスの友だちと一緒に遊ぼう】</b> ・教室…幼児期に親しんでいた手遊び、わらべうた ・校庭…遊具遊び、自然観察 ・体育館…体ほぐしの運動、簡単な表現活動 など				
1～4校時	・時間割や1単位45分の授業にとらわれず、子ども達の様子を見ながら柔軟に計画する。 ・入学当初は15～20分単位で学習活動を計画するとよい。 ・15～20分の活動の中に、体を使った活動や、教室前方に集まって発表し合ったり話し合ったりするような活動を設ける。				
帰りの時間	読み聞かせ、かんたん掃除				

### ※参考

小学校第1学年の週当たり標準授業時数（合計25時間）

国語9時間、算数4時間、生活3時間、音楽2時間、図画工作2時間、  
体育3時間、道徳1時間、特別活動1時間

### 【指導上の留意点】

- ・朝、教室で子ども達を出迎え、一人一人に声をかけながら、安心できる雰囲気を作る。
- ・授業の中に、ペアやグループの活動を取り入れ、新しい友だちと接する機会を意図的に設ける。
- ・チャイムを聞いたり、一日の予定を見たりしながら、自分で行動できるようにする。

## 4月 第3週

### 【今週のねらい】

学校での生活に慣れ、学校探検や様々な学習に進んで取り組むことができる。

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
朝の時間	【学年の友だちと一緒に遊ぼう】 ・校庭…遊具遊び、竹馬・一輪車、自然観察 ・体育館…体ほぐしの運動、簡単な表現活動 など				
1～4校時	・時間割や1単位45分の授業にとらわれず、子ども達の様子を見ながら柔軟に計画する。 ・15～20分単位で学習活動を計画するとよい。				
帰りの時間	読み聞かせ、かんたん掃除				

### 【指導上の留意点】

- ・朝、教室で子ども達を出迎え、一人一人に声をかけながら、安心できる雰囲気を作る。
- ・活動に入りにくい子どもには、声をかけたり、そばにいるようにしたりして、安心して活動に向かうことができるようにする。
- ・積極的に挨拶や返事をしたり、相手の方を見ながら話を聞いたりしている子どもの頑張りを、個別または学級全体で認める。
- ・授業中の発表の仕方を指導する。
- ・授業の中に、ペアやグループの活動を取り入れ、新しい友だちと接する機会を意図的に設ける。
- ・授業中の発表の仕方を指導する。
- ・チャイムを聞いたり、一日の予定を見たりしながら、自分で行動できるようにする。
- ・体操服に着替える際、衣服をきちんとたたむようにする。

## 4月 第4週

### 【今週のねらい】

基本的な学習習慣が少しずつ身に付き、自分のことは自分でできる。  
当番活動などにも意欲的に取り組もうとする。

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
朝の時間	<b>【2年生、6年生と一緒に遊ぼう】</b> ・教室…わらべうた・校歌を歌う、ゲーム活動 ・校庭…遊具遊び、竹馬・一輪車、自然観察、鬼ごっこ ・体育館…体ほぐしの運動、簡単な表現活動 など				
1～4校時	・1単位45分の授業を少しずつ行う。 ・表現活動やペア・グループ活動などを積極的に取り入れ、体験を通じた気づきや学びを大切にする。				
帰りの時間	読み聞かせ、かんたん掃除				

### 【指導上の留意点】

- ・朝、教室で子ども達を出迎え、一人一人に声をかけながら、安心できる雰囲気を作る。
- ・活動に入りにくい子どもには、声をかけたり、一緒に遊んだりして居場所を作る。
- ・授業の中に、ペアやグループの活動を取り入れ、新しい友だちと接する機会を意図的に設ける。
- ・チャイムを聞いたり、一日の予定を見たりしながら、自分で行動できるようにする。
- ・給食当番や係活動、日番活動など、自分に任された仕事が最後までできるよう、声をかけたり、一緒に活動したりする。

### (3) 月ごとの取組例

#### 5 月

##### 【今月のねらい】

- ・登下校やチャイム、時間割など、学校での生活やルールに慣れ、自分のことは自分でできる。
- ・1日あたり45分×5時間授業という1日の流れに慣れ、楽しみながら集中して学習に取り組むことができる。

##### 【指導上の留意点】

###### 生活する力

- ・チャイムに合わせて、行動できるよう声をかける。(休み時間の中に、次の時間の準備をする)
- ・トイレは、できる限り休み時間に行く意識を持たせる。
- ・ほうきやちりとり、ぞうきんの使い方を知る。
- ・給食当番や係活動、日番の仕事など、自分でできるよう見守ったり、声をかけたりする。

###### 人とかかわる力

- ・連休明けも、朝は教室で子ども達を出迎え、一人一人に声をかけることで、安心できる雰囲気を作る。
- ・連休中の出来事について、隣の人やグループで伝え合ったり、全員の前で発表したりする機会を設ける。

###### 学ぶ力

- ・絵や図などを用いながら、言葉の説明や新出語句の学習を行う。
- ・国語科で習得した言葉や表現方法は、生活科や算数科等の学習場面で意図的に活用するようにする。
- ・算数科で習得した数の概念や大小の感覚は、生活科の学習場面等(アサガオの観察、学校探検等)で意図的に活用するようにする。



## 6 月

### 【今月のねらい】

学校での生活やルールに慣れ、新しい人間関係の中で、友だちと一緒に遊んだり、自分の思いや考えを伝え合ったりする。

### 【指導上の留意点】

#### 生活する力

- ・給食当番や係活動、日番の仕事など、自分の役割を自覚し、最後までやり遂げる姿を認めていく。
- ・気温が上がると、食欲減退などの様子も見られるため、一人一人の体調には十分気をつける。
- ・雨の日の過ごし方について、校内で統一された指導を徹底する。

#### 人とかかわる力

- ・新しい人間関係が広がっていくに従い、トラブルも増加するため、それぞれの話を十分聞いた上で、子ども達自身がどうすべきだったかを考えられるよう、声をかけたり話し合いに介入したりする。

#### 学ぶ力

- ・国語科で習得した言葉や表現方法は、生活科や算数科等の学習場面で意図的に活用するようにする。
- ・算数科で習得した数の概念や大小の感覚は、生活科の学習場面等（アサガオの観察、学校探検等）で意図的に活用するようにする。
- ・友だちと一緒に活動したり協力したりする楽しさが分かり、自分がクラスの一員であることを感じ、安心感が持てるような活動を取り入れる。

### 3 単元案（生活科を中心としたカリキュラム：第1学年 学校たんけん）

#### (1) 生活科を入り口に教科学習へつなぐ

幼児期は、好きな遊びの中で感性を育み「学び」の基礎や主体的な生活態度を身に付けてきました。具体的な体験を重視した生活科は、幼児教育における「遊び」の要素を含んだ教科であり、生活科を中心とした合科的・関連的な学習が入学直後には効果的です。生活科で経験したことを他教科でいかしたり、他教科で学習したことを生活科の学習にいかしたりしながら、「遊びを通した学び」から「教科を通した学び」への滑らかな接続を意識してみましょう。

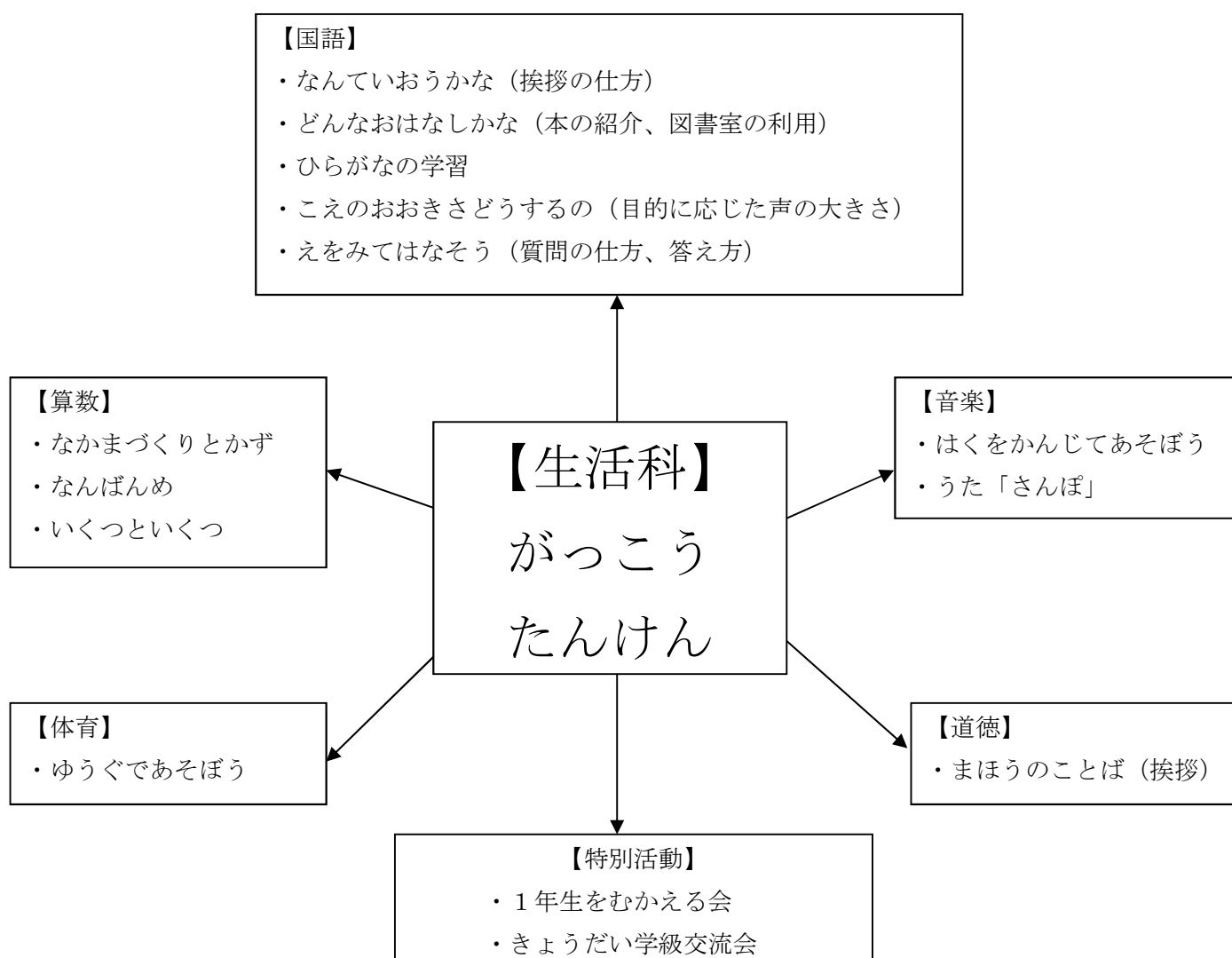


図1 生活科「がっこうたんけん」を中心とした各教科の単元・指導内容との関連

(2) 単元目標

【関心・意欲・態度】

学校の友だちや先生と親しくかかわったり、学校探検で学校の教室や施設を調べたりする活動を通して、安全に気を付けて楽しく学校生活を送ろうとしている。

【思考・表現】

友だちと楽しく遊びを工夫したり、学校探検で発見したことや感じたことを絵や文などで表現したりすることができる。

【気付き】

学校には、みんなで遊んだり学習したりするための施設やきまりがあることや、学校生活はたくさんの人々に支えられていることに気付く。

(3) 学習のねらいと活動内容及び他教科との関連

ねらい	活動内容	他教科との関連	アプローチカリキュラムとの関連
1ねんせいになったよ（2時間）			
・小学校生活に思いを寄せ、期待感を持って学習に取り組む	・学校生活の中のみまりや、学級の約束事を確認する。 ・安全な登下校の仕方について考える。	・特別活動（学級活動） ・音楽（はくをかんじてあそぼう）	・生活する力（あいさつ、安全） ・学ぶ力（関心・意欲・態度、表現）
ともだちいっぱい（4時間）			
・挨拶や自己紹介をしながら、新しい人間関係を作る。	・ペアやグループで、挨拶や自己紹介をする。 ・友だちと一緒に校庭の遊具や道具で遊ぶ。	・国語（なんていおうかな、こえのおおきさどうするの） ・道徳（まほうのことば） ・体育（ゆうぐであそぼう）	・生活する力（あいさつ） ・人とかかわる力（共感、協同） ・学ぶ力（関心・意欲・態度、言葉、運動）
がっこうたんけん①（3時間）			

<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校には様々な教室や設備があることに気付く。</li> <li>・学校には様々な人が働いていることに気付く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担任と校内を探検する。</li> <li>・2年生と校内を探検する。</li> <li>・気が付いたことを絵や言葉で伝え合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・算数（なかまづくりとかず、なんばんめ、いくつといくつ）</li> <li>・国語（なんていおうかな、こえのおおきさどうするの、どんなおはなしかな、えをみてはなそう）</li> <li>・道徳（まほうのことば）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活する力（あいさつ）</li> <li>・人とかかわる力（共感、協同）</li> <li>・学ぶ力（関心・意欲・態度、言葉、文字・数・形）</li> </ul>
<b>がっこうたんけん②（4時間）</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・疑問や不思議に感じたこと、持つと知りたいと思ったことについて調べようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちだけで探検する。</li> <li>・気が付いたことを絵や言葉で伝え合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・算数（なかまづくりとかず、なんばんめ、いくつといくつ）</li> <li>・国語（なんていおうかな、こえのおおきさどうするの、どんなおはなしかな、えをみてはなそう）</li> <li>・道徳（まほうのことば）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活する力（あいさつ）</li> <li>・人とかかわる力（共感、協同）</li> <li>・学ぶ力（関心・意欲・態度、言葉、文字・数・形）</li> </ul>
<b>がっこうのこと持つとしりたいね（3時間）</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の中でお気に入りの場所を見つけ、紹介する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分がいちばん好きな場所を、絵や言葉で表現し、友だちや保育所・幼稚園の先生に紹介する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語（えをみてはなそう）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人とかかわる力（共感、協同）</li> <li>・学ぶ力（関心・意欲・態度、言葉）</li> </ul>

「がっこうのこと持つとしりたいね」は、自分のお気に入りの場所を紹介する活動です。伝える相手を明確にすることで、より目的意識がはっきりします。例えば、お家の人、お世話になった幼稚園・保育所の先生、出身園所へのお手紙、たんけんにつれて行ってくれた2年生などに内容を伝える活動が考えられるでしょう。教師は、子ども達の楽しかった気持ち、新しい発見に喜ぶ気持ちを大切に、心がゆれ動いた瞬間に生まれた言葉を見逃さないようにしましょう。

#### 4 スタートカリキュラム（モデル校実践案）

『令和〇〇年度 〇〇小スタートカリキュラム』

##### 【目的】

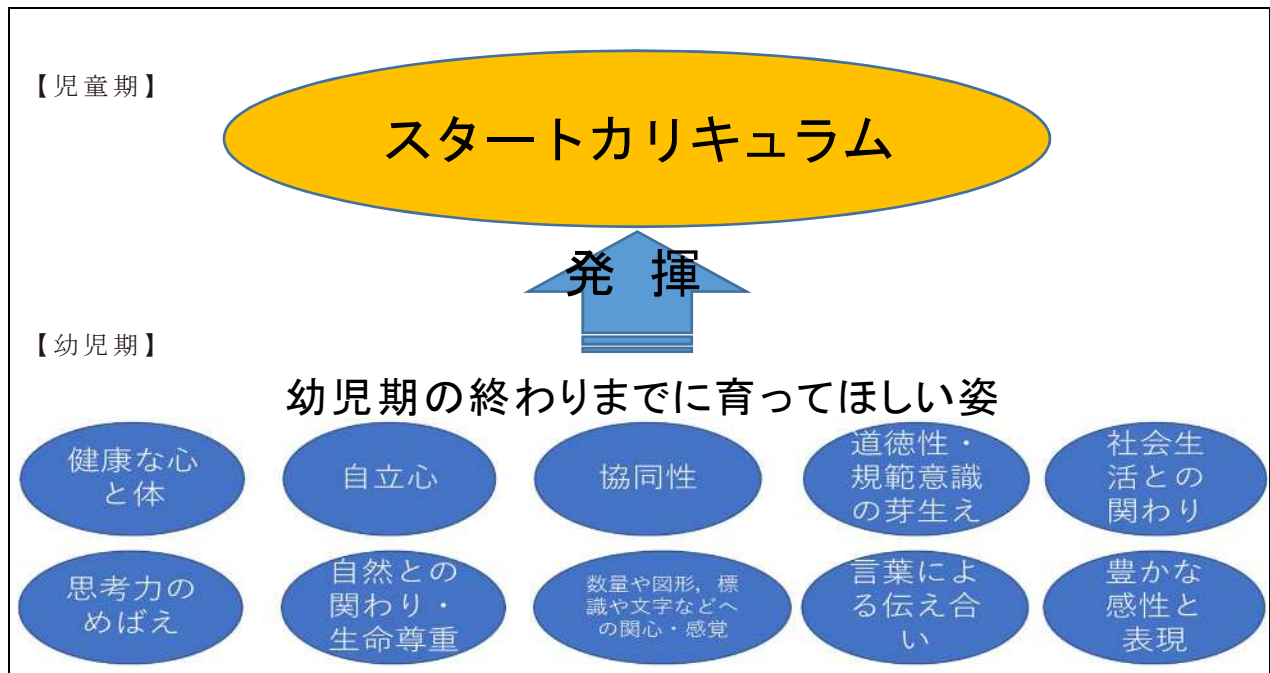
- ・入学したての児童が、主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことが可能にするため（受身ではない）
- ・幼児期と小学校生活のギャップをなだらかにし、児童が安心して学校生活を楽しむことができ、幼児期における遊びや生活を通じた学びと育ちを基礎として、学びに向かうことが可能となるようにするため（ゼロからのスタートではない）

##### 【期間】

入学後から5月末までの約2～3カ月間（児童の様子をみながら期間を決めていく）

##### 【幼児期から小学校への学びの連続】

- ・幼児期のおわりまでに育ててほしい姿を踏まえた指導を工夫することにより、幼稚園教育要領などに基づく幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を実施し、児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことが可能となるようにする。



##### 【方法】

- ・生活科を中心につながりのある他教科とのねらいを考えながら合科的・関連的な指導を行う（単元配列表の作成）
- ・弾力的な時間割の設定をするなど、指導の工夫や指導計画の作成を行うこと（幼児期の生活リズムや園での過ごし方を参考にする。10分や15分単位の時間割やゆとりのある時間設定を組む）
- ・児童が安心して学校生活を楽しめるように、一定の時間は同じ学習を繰り返す連続性と少しずつ高まっていく発展性を意識する。
- ・児童の思いや願いの実現に向けた主体的な学習活動を行う。

【具体的な取組内容】

①単元配列表の作成

生活科を中心にした単元配列表（1学期）

各教科等	4月			5月				6月			7月			
	第1週	第2週	第3週	第4週	第5週	第6週	第7週	第8週	第9週	第10週	第11週	第12週	第13週	第14週
国語	どうぞよろしく	こえのおおきさ どうするの		えをみてはなそう		ふんをつくろう		おもいたしてはなそう	すきなこと、ななに		くちばし	おむずびごろりん	おおきなかぶ	たからものをおしえよう
算数		なかまづくりとかず			なんばんめ				あわせていくつ ふえるといくつ のこりはいくつ			10よりおおきいかず	なんじなんじはん	
生活	はじめまして	はるみつけ	みんななかよし	がっこうだいすき	がっこうた				わたしのあさがお おおきくなあれ					
音楽	こつか、つたてさんぽ さんぽ なまえあそび	さんぽ	そうさんのさんぽ	てとてであいさつ				じゃんけんぼん みんなであそぼう	しろくまのジェンカ			ぶんぶんぶん	うみ	
図画工作	すきなものななに	ねんどでつみき	おひさまにここ				すなやつちとなかよし	チョコチョコキかざり				おってたてたら		
体育		ゆうくあそび	ならびっこ	かけっこ	おにあそび							ボールあそび		みずあそび
道徳	あかるいあいさつ	はりきり1ねんせい					ぼくはきゅうしよくとうぼん							
特別活動	にゅうがくしき	たのしいきゅうしよく	1ねんせいをむかえるかい	おしごとたのしいな									6ねんせいとうれしいな	塚つかフェスタ

②スタートカリキュラムの週案 (例)

	第5日	第6日	第7日	第8日	第9日		第〇日
日	4月15日	4月16日	4月17日	4月18日	4月19日		6月 日
朝	朝の準備						
8:30 (朝の準備後) ~8:45 (9:00)	わくわくタイム (例) ・折り紙 ・絵本 ・昔遊び ・遊具遊び ・おにごっこ等 ・砂場遊び						朝の会 通常プログラム
1時間目	①朝の会 ②読み聞かせ ③お話聞いて(スピーチ) ④手遊び・歌おう ※国語科として時数計算						
2時間目							
3時間目							
4時間目							

※行事や保健の検査等が入っているときはこの限りではありません。

③1学期の見通し

	4月	5月	6月	7月
8:00頃~8:30	朝の準備			
8:30頃~8:45	わくわくタイム(30分間)	わくわくタイム(30分間)	わくわくタイム(15分間) 朝の会(中頃~)	朝の会 学習
1時間目 (9:00~9:30)	読み聞かせ・お話・手遊び (国語・音楽)	朝の会(中頃~)	学習	
2時間目	学習 (15分~20分の柔軟な 時間割を工夫する)	学習 (15分~20分の柔軟な 時間割を工夫する)		
業間休み			業間休み(25分間)	
3時間目				
4時間目				
昼休み 13:00~13: 20				昼休み (20分間)
そうじ				
5時間目				

## 参考引用文献等

- 1 『幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について（報告）』  
平成 22 年 11 月 1 日 幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方に関する調査研究協力者会議
- 2 『スタートカリキュラムスタートブック』  
平成 27 年 1 月 文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター
- 3 『幼児教育部会における審議の取りまとめについて（報告）』  
平成 28 年 8 月 26 日 中央教育審議会 幼児教育部会
- 4 『指導の手引き 幼児期と児童期の「学び」の接続の推進に向けて』  
平成 26 年 3 月 兵庫県教育委員会
- 5 『指導の手引き 幼児期と児童期の「学び」をつなぐ』  
平成 29 年 3 月 兵庫県教育委員会
- 6 『指導の手引き 学びと育ちをつなぐアプローチカリキュラムの作成』  
平成 30 年 3 月 兵庫県教育委員会
- 7 『尼崎市子どもの育ち支援条例』平成 21 年 12 月 18 日 尼崎市
- 8 『就学前の子どもの教育・保育についての基本的な考え方』  
平成 26 年 12 月 尼崎市・尼崎市教育委員会
- 9 『尼崎市立幼稚園教育振興プログラム』平成 24 年 8 月 尼崎市教育委員会
- 10 『ひめじ保幼小連携教育カリキュラム』平成 23 年 12 月 姫路市教育委員会
- 11 『保幼小連携接続カリキュラム』  
平成 24 年 12 月 佐世保市子ども未来部 幼児教育センター
- 12 『草加市幼保小接続期モデルプログラム  
～心豊かに充実した小学校生活に向けて～』  
平成 26 年 2 月 草加市教育委員会 子ども推進連携推進室
- 13 『平成 26 年度 幼保小連携推進地区事業 実践記録集』  
平成 27 年 3 月 横浜市こども青少年局
- 14 『幼稚園教育要領解説』平成 20 年 10 月 文部科学省
- 15 『幼稚園教育要領解説』平成 30 年 3 月 文部科学省
- 16 『保育所保育指針』平成 20 年 8 月 厚生労働省
- 17 『保育所保育指針解説』平成 30 年 2 月 厚生労働省
- 18 『幼保連携型認定こども園要領』平成 30 年 3 月 内閣府・文部科学省・厚生労働省
- 19 『小学校学習指導要領』平成 20 年 3 月 文部科学省
- 20 『小学校学習指導要領』平成 30 年 3 月 文部科学省



**あまっ子の育ちと学びをつなぐ『幼保小接続カリキュラム』**

**令和5年3月改訂**

**編集・発行 尼崎市教育委員会事務局・こども青少年局**

**所在地:尼崎市三反田1丁目1番1号**

**電話番号:(06)4950-5665**